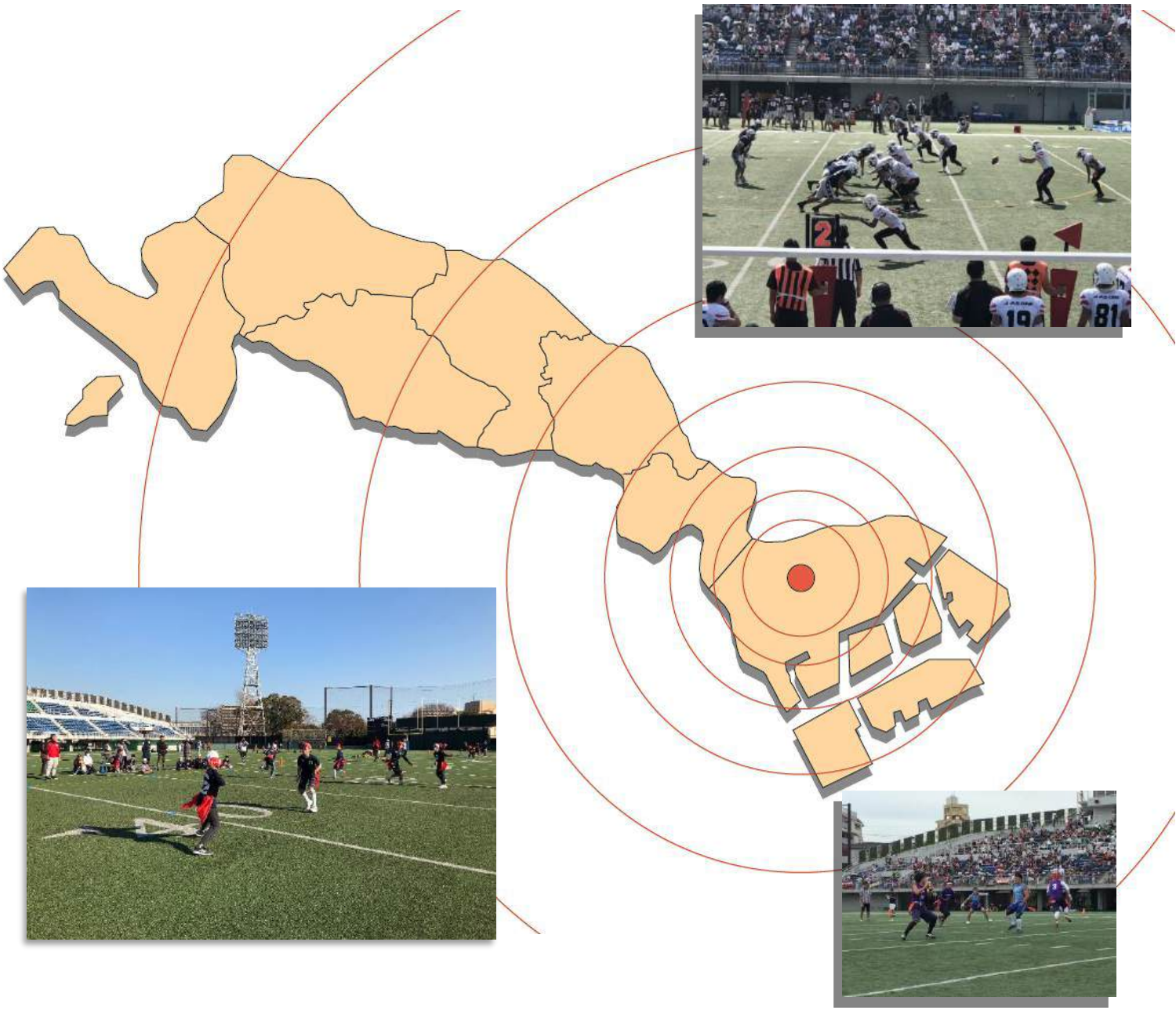
川崎市アメリカンフットボールのまちづくり
取組指針



2019 年３月

公益社団法人 日本アメリカンフットボール協会
川崎市アメリカンフットボール協会

はじめに

日本のアメリカンフットボールは、1970 年代から旧川崎球場を中心にアメリカンフットボールの試合が頻繁に開催されていることや、市内を拠点とする社会人、大学、高校チームや、フラッグフットボールクラブチームが多くあること、さらには、2007 年にアメリカンフットボールワールドカップが開催され、世界のトップチームが川崎に集結し盛り上がったことなど、川崎市との結びつきが強くなっています。

このようなことから、アメリカンフットボールを活用したまちづくりを推進するために川崎市と締結した包括協定を基に 2009 年には、「2009 年度アメリカンフットボールを活用したまちづくり取組指針（以下「2009 年度取組指針」）」が策定されました。これは、2009 年からアメリカンフットボールの普及と地域のつながりを具体化するための取組内容を示したものです。しかし、策定から約１０年が経ったことから、ある一定の役割を終えたと考えます。このため、今後さらなる発展をしていくためには、新たな取組指針が必要であると考えます。

このようなことから、これまでの取り組みを振り返りつつ、近年の社会情勢を鑑みながら、改めて、「アメリカンフットボールを活用したまちづくり取組指針」を策定することとしました。

この取組指針は、2019 年から１０年間の川崎市におけるアメリカンフットボールの発展と、川崎市・地元との関わりに関する取組を示したものです。

２０１９年３月

公益社団法人 日本アメリカンフットボール協会

川崎市アメリカンフットボール協会

目　次

第１章．当取組方針を考えるにあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
１．考え方の整理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
（１）これまでの取組の整理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
（２）関連する既往計画「川崎市スポーツ推進計画」について・・・・・・・・・・・・・17
２．課題の整理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

第２章．当取組方針の基本目標と方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
１．基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
２．基本目標を具体化するために・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
３．取組方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

第３章．具体的な取組について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
１．取組内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
取組方針１．川崎市がアメリカンフットボールの拠点であることをさらに広く周知する
取組方針２．市と協働で「アメリカンフットボールを活かしたまちづくり」を進める
取組方針３．アメリカンフットボールをもっと市民にとって身近なスポーツとする
取組方針４．富士通スタジアム川崎を市民が誇れる施設とする
取組方針５．アメリカンフットボール観戦者に１日川崎で楽しく過ごしてもらう
取組方針６．魅力的な試合を開催する
取組方針７．フラッグフットボールを通じた子どもたちの健全育成と市民の“絆”の強化を図る
２．コミュニティ戦略を踏まえたＰＲ活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
３．各競技の連携した取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50

第４章．取組指針の推進について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
１．実行体制について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
２．当取組方針の見直しについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53

資料編・・・54

第１章．当取組指針を考えるにあたって

１．考え方の整理

・当取組指針を考えるにあたって、次のことについて整理しました。

（１）これまでの取組の整理
①2009 年度取組指針の振り返り
②川崎市とアメリカンフットボールの関わりについて
③地元とアメリカンフットボールの関わりについて

（２）関連する既往計画「川崎市スポーツ推進計画」について

（１）これまでの取組の整理

①2009 年度取組指針の振り返り

・「2009 年度取組指針」が策定されたことにより、アメリカンフットボールの川崎市での展開について、ある一定のビジョンができたことで、具体的な取組がしやすくなりました。一方で、課題も明確になったと考えます。

・このようなことから、「2009 年度取組指針」を振り返り、課題を整理したうえで、今後の取組みを考えることが必要です。2009 年度取組指針の取り組み状況とその課題については、次のように整理されます。

基本方針１．「アメリカンフットボールの拠点化の推進」について

１）「魅力的な試合の開催」について

＜実績＞

・富士通スタジアム川崎において、選手権試合や人気カードが多く組まれ、それとともに協会・川崎市・地元の皆様が一体となっての集客活動も定着してきた。これにより、満員もしくは満員に近いくらいの試合が増えた。

□満員のスタンドの様子

＜振り返り＞

・魅力的な試合は増えている。ただし、来場する観戦者は、従前からのアメリカンフットボールファンがほとんどであり、観戦者層があまり広がっていない。
・川崎が拠点であることが、市民に知られていない。市外についてもアメリカンフットボールファンや関係者以外に知られていない。
・川崎でアメリカンフットボールに関係する組織同士が連携して PR できていいないのではないかと感じる。
・2009 年度取組方針では、「川崎を象徴する試合」の内容が明確でなかった。
・国際大会の開催も重要だが、国内大会を盛り上げないと、世界大会は目立たない。

2）「競技人口増加の取組」について

＜実績＞

・タイタンズ計画により、小中学生タッチフットボールチームを主催する団体が２団体できた。

□小中学生タッチフットボールの試合

写真提供：関東中学生アメリカンフットボール連盟

＜振り返り＞

・タイタンズ計画により、市内に２チームができた。そこへの参加者は比較的多いが、チームが増えるなどの横の広がりにつながっていない。
・小学生ではフラッグフットボールを中心に競技人口が増えているが、中学生では増えていない。原因は指導者不足と部活との兼ね合いが原因ではないかと考える。
・この 10 年間で各取組を通じ、アメリカンフットボール、フラッグフットボールの長所である、個性や長所が活かせるマルチスポーツとして発信することができたと考える。
・アメリカンフットボールはプレーすることについて、ハードルが高いスポーツである。子どもの年齢に合わせた参加の仕方が必要である。
・フラッグフットボールでは、指導者を増やすために、指導者資格をつくることが必要である。合わせて指導者資格を取得したくなるインセンティブが必要である。
・「競技経験者の掘り起こし」の内容を明確にすることができなかった。

３）「競技の普及・発展の拠点の形成」について

＜実績＞

・富士通スタジアム川崎にて、クリニック等が開催されることはあるものの、「競技の普及・発展の拠点」という位置づけで、恒常的に行われる行事等を確立することはできなかった。

＜振り返り＞

・「2009 年度取組指針」にある「指導者等会議・講習の開催」はできていない。「指導者会議・講習」とは、どのようなものなのか、何を目指していたのか不明確である。再度議論する必要がある。
・「2009 年度取組指針」にある「指導者等の活躍の場」の意味が不明確である。
・今後必要な視点であるが、サポートが必要なほど競技者が増えていない。

基本方針２.「アメリカンフットボールを活用した地域商業・経済・コミュニティの活性化」の振り返り

１）「競技団体と市内商店街の連携、地域商店経済の活性化」について

＜実績＞

・富士通スタジアム川崎近くの商店街を“アメフト×商店街”として連携を図った。
・“アメフト×商店街”の店舗から協力してもらい、Ｘリーグ、関東学生連盟の試合に合わせて、“川崎アメフト屋台村”を開催した。
・地域イベントへ選手やチアリーダーが参加し、アメフトをＰＲした。

□アメフト×商店街を紹介するホームページ

＜振り返り＞

- 観客は、試合後は市役所通りを通って駅へ帰る人が多いようである。このため、富士通スタジアム川崎からアメフト商店街への導線をもっと明確に表す必要がある。
- 地域のお店を知ってもらうための取組も重要である。
- 駅前の商業施設である川崎ルフロンと、試合イベント等で連携していただいている意味は大きい。相互にお客様が行きかうなど、成果が出始めている。

２）「ホームチームの地域の密着化」について

＜実績＞

- 富士通スタジアム、アサヒビールシルバースター及び法政大学オレンジが、地域密着型の取り組みを実施している。
- 富士通フロンティアーズが多摩川美化運動に参加している。

□ホームチームの試合の様子

＜振り返り＞

- 「ホームチームの地域の密着化」については、各チームとも力を入れて取り組むようになった。今後、どう展開するかが課題だと感じる。
- 選手の意識としては、ファンが増えるということは、自分自身のモチベーションを上げるものとなっており、励みにもなっている。
- アメリカンフットボールについても、「する」「みる」「支える」の視点を取り入れた取組を考えるべきである。

３）「地元ファンの増加、応援体制の強化」について

＜実績＞

- 富士通フロンティアーズは、川崎市のホームタウンスポーツ推進パートナーの一員として、市と連携しての普及活動に、熱心に取り組んでいる。その結果、地元市民からの応援者が増えている。
- アサヒビールシルバースターは、川崎区と協働しての地域活動に、熱心に取り組んでいる。
- 富士通フロンティアーズによる「ゆるスポーツ」などの会場でのイベント実施。
- 社会人や学生の公式戦に、毎年、市民招待を実施しており、市民がスタジアムに足を運んでいる。

□地元チームの応援

(C)KAWASAKI FRONTALE

＜振り返り＞

- 富士通スタジアム川崎については、日本のアメリカンフットボールにおいてフランチャイズ方式として考えるのではなく、セントラル方式と考えるべきである。セントラル方式として、どう盛り上げるか、その視点で考えることが必要である。
- 富士通フロンティアーズの試合は、毎回ほぼ満席になっているが、その他の試合が満席になっていない。その他の試合をどう満席にするかを考えるべきである。

基本方針．３「アメリカンフットボールと川崎の魅力発信・相互イメージアップ」の振り返り

１）「共同ＰＲの展開」について

＜実績＞

・アメリカンフットボールの英語版ＰＲパンフレットを市が作成し、協会が配布した。
・バス車内広告、図書館レシートへの広告掲載などを通じて情報発信を行った。
・小学生向けの試合会場でのイベント実施告知チラシを作成し、全市立小学校で配布した。

＜振り返り＞

・川崎でアメリカンフットボールを開催していることが、市民にまだあまり知られていない。
・ＰＲの方法について、アナログとデジタルをうまく使い分けることが重要である。
・どういうメディアを使って、どうすれば良くなるか、知見も溜まっているので、それを活かす必要がある。
・協会と行政が協働でＰＲしていることについて、総合的にはすばらしいことである。
・ＰＲにあったては、ターゲットの明確化が必要である。
・行政とアメリカンフットボール関連団体で、役割分担の明確化が必要である。また、それを割り振り（コーディネート）する体制も必要である。
・地元チーム以外のファンをいかに富士通スタジアム川崎へ呼ぶかを考える必要がある。
・川崎市がアメリカンフットボールを通じて、何をＰＲしたいのかを知る必要がある。

２）誰でも楽しめる観戦環境づくり

＜実績＞

・市民館等の公共施設で「アメリカンフットボール観戦講座」を開催している。参加者は、毎回ほぼ定員に達している状況にある。

＜振り返り＞

・多くの機会を設けて開催して「ルールがわからないから観ない」というハードルを下げていく必要がある。

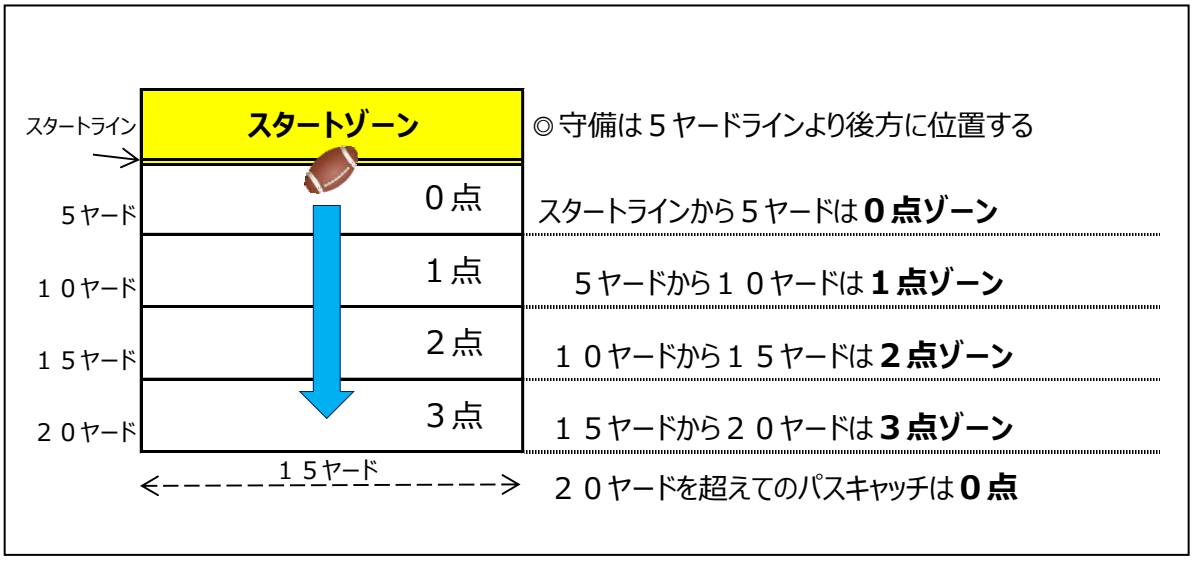
基本方針４.「フラッグフットボールを通じた子どもたちの健全育成と市民の“絆”の強化」の振り返り

１）「フラッグフットボールの推進による子どもたちの健全育成」について

＜実績＞

- 2007 年世界選手権を川崎で開催するにあたり、アメフトに興味関心を持たせ広げるため、フラッグフットボールを小中高校生に体験させる普及事業を開始。当初はフラッグフットボールに興味がある市立小中高校数校に依頼し実施した。その後、市内公立学校に実施希望調査を行い、希望した学校には、川崎市アメリカンフットボール協会から派遣されたコーチが、フラッグフットボールの楽しさ・喜びを味わう事を目的にした巡回指導を実施した。取組やすいようにフラッグとボールを市が予算化し配布。現在、小学校すべてに配布済み。補充等は平成 26 年度から学校予算で購入。中高は現在も希望校には配布している。
- 平成 20 年に改訂された小学校学習指導要領ではフラッグフットボールが明記され、体育の授業で学習できるようになり、巡回指導を希望する学校が増加した。それに対して、中学校では学習指導要領から選択体育が削除されたため、フラッグフットボールが学習できなくなる。そのため、巡回指導は小学校が中心になっている。
- ルールについては、３ダウン or４ダウンで前進し、タッチダウンをねらう作戦（スタートラインが毎回変わるため）は子どもや先生はなかなか理解できず、フラッグフットボールは難しいという声が多く聞かれるようになった。このため、「分かりやすく・楽しく・夢中になれるゾーン得点方法での指導を試み、現在に至る。

□ゾーン得点方法



＜振り返り＞

・フラッグフットボールの普及にここまで力を入れている自治体はみられない。
・学校では取り組まれているが、放課後や休日にフラッグフットボールで楽しんでいる子どもはあまりみかけない。放課後や休日にもフラッグフットボールを楽しむ子どもを増やすための環境づくりが必要である。
・フラッグフットボールは、子どもたちにとってどのような価値があるかをしっかり発信する必要がある。それをアメリカンフットボール関係者が言えると良い。
・市内の小学校で取り組まれているが、教える人が足りていない。
・小学校でゾーン得点方法を導入した結果、子ども達は「楽しかった」「もっとやりたい」、先生方は「わかりやすい」「これなら私も指導できる」との感想が出されている。
・私たちの目標「分かりやすく・楽しく・夢中になれるフラッグフットボール」に近づいたと振り返りし現在に至る

2）「フラッグフットボールの拠点化の推進」について

＜実績＞

・富士通スタジアム川崎と法政大学グラウンドで、フラッグフットボールの選手権、ビッグイベントが開催されている。
・夏休みにとどろきアリーナで小学生、指導者を対象に体験会・講習会の実施しており、毎回40 名以上の参加者がいる。

【市内で開催される主な大会等】

〇川崎市内小学生交流大会（主催：川崎市アメリカンフットボール協会　時期：５月、９月）
〇藤子・Ｆ・不二雄ミュージアムカップ（主催：川崎市　時期：１月）
〇中原区フラッグフットボール小学生交流大会（主催：中原区役所、川崎市アメリカンフットボール協会　時期：２月）
〇NFL フラッグフットボール日本選手権大会（NFL FLAG） FINAL（主催：（公財）日本フラッグフットボール協会　時期：12 月（隔年））
〇THE HUDDLE BOWL（主催：日本フラッグフットボール協会　時期１月）

□THE HUDDLE BOWL

□NFL FLAG

□藤子・Ｆ・不二雄ミュージアムカップ

□中原区フラッグフットボール小学生交流開会

＜振り返り＞

- フラッグフットボールの普及にここまで力を入れている自治体はない。（再掲）
- 学校では取り組まれているが、放課後や休日にフラッグフットボールで楽しんでいる子どもはあまりみかけない。放課後や休日にもフラッグフットボールを楽しむ子どもを増やすための環境づくりが必要である。（再掲）
- フラッグフットボールは、子どもたちにとってどのような価値があるかをしっかり発信する必要がある。それをアメリカンフットボール関係者が言えると良い。（再掲）
- 市内の小学校で取り組まれているが、教える人が足りていない。（再掲）

3）「フラッグフットボールを通じた市民の交流の推進」について

＜実績＞

- Ｘリーグ公式戦前に親子でキャッチボール等のイベントを実施している。
- 市民まつりでアサヒビールシルバースター選手によるフラッグフットボール教室を開催している。
- 川崎みなと祭り、富士通スタジアム川崎主催での夏祭り等でアメリカンフットボール体験を実施

＜振り返り＞

- 交流のイメージが明確ではない。
- 今後はおとなへの取り組みが必要ではないか。

→スポーツする人（おとな）60%にすることを目指す必要がある。

2009 年度取組指針全体について

＜振り返り＞

- まずはアメリカンフットボールのまちづくりを進めていく組織体制を確立し、各関係団体との連携を深めることがスタート(内部マネジメントの整備)する。
- 定例的なミーティングを設け、アイディアを出し合う。出されたアイディアのうち、できそうなものについてはその都度実施する。また、2009 年に策定された取組指針は、10 年間見直されなかったため、内容が時代に合わなくなった。このため、当取組指針については、定期的に見直す必要がある。
- アメリカンフットボールのＰＲだけでなく、川崎市とアメリカンフットボールの両方をＰＲする必要がある。
- アメリカンフットボールが川崎市まちづくりでどのように貢献できるのかを、明確にする必要がある。
- フラッグフットボールについては、「子どもの健全育成」と「競技の普及」に分けて考える必要がある。

②川崎市とアメリカンフットボールの関わりについて

・旧川崎球場では、1970 年代からアメリカンフットボールの試合が行われたと言われています。また、これまで、2007 年のアメリカンフットボールワールドカップ川崎大会、2013 年に旧川崎球場がアメリカンフットボールを中心とした球技場、「富士通スタジアム川崎」として生まれ変わったことなどの動きがあります。このような動きのなか、川崎市と日本アメリカンフットボール協会の間では協定書が結ばれるなど、川崎市は日本のアメリカンフットボールの拠点であり、川崎市としても市内の活性化や市外へのＰＲなどの施策を行うための大きな資源になっています。

・2007 年に締結された「川崎市と日本アメリカンフットボール協会との包括協定」には、下記の内容が記されています。このようなことから、川崎市とアメリカンフットボールは、今後も協働体制で取り組み、協定書の内容について具体化することが必要です。

川崎市と日本アメリカンフットボール協会との包括協定

第3回アメリカンフットボールワールドカップ 2007 川崎大会が川崎市で開催されたことを契機に、川崎市（以下「甲」という。）と社団法人日本アメリカンフットボール協会（以下「乙」という。）は、相互の連携・協力の下、川崎市をアメリカンフットボールの拠点とするとともに、アメリカンフットボールを活用したまちづくりを推進するため、次のとおり包括協定を締結する。

1　甲と乙は、アメリカンフットボールを川崎の新たな魅力にはぐくみ、その魅力を全国に向けて発信するものとする。

2　甲と乙は、アメリカンフットボールを通じた青少年の健全育成の推進に努めるものとする。

3　甲は、アメリカンフットボールを活用した地域商業・経済の活性化に努め、乙はこれに協力するものとする。

4　乙は、川崎市内のアメリカンフットボールの普及・振興に努めるものとし、甲は、乙の活動を支援するものとする。

5　甲と乙は、上記に掲げる事項のほか、この協定の目的の実現に向けた取組を連携して推進するものとする。

6　具体的な事項及びその他必要な事項については、甲と乙が協議して別に定めるものとする。

平成１９年１１月２９日

③地元とアメリカンフットボールの関わりについて

- 川崎市でアメリカンフットボールがさらに盛り上がるためには、行政だけでなく、市民から愛着を持たれ、誇りに思ってもらう必要があります。
- このためには、いかにアメリカンフットボールが市民にとって身近になるかが重要です。このため、これまで市内のさまざまな団体などと連携しながら、次のような取組を行いました。

1）アメフト×商店街

- 富士通スタジアム川崎近くにある商店街を、「アメフト×商店街」として、アメリカンフットボールとの関係性、連携を強めています。
- 具体的には、富士通スタジアム川崎のホームページで紹介したり、試合当日に富士通スタジアム川崎の広場部分で、商店街店舗による川崎アメフト屋台村の開催などを行い、来場者から好評です。

2）川崎ルフロンとのタイアップ

・川崎駅前の川崎ルフロンとタイアップしてさまざまな催しを実施しています。これらは、アメリカンフットボールを身近に感じる機会になっています。

■川崎ルフロンＤＡＹ

・Ｘリーグのリーグ戦開催期間中には、川崎ルフロンＤＡＹと称してさまざまな企画を実施しています。主なものとしては、Ｘリーグチアダンス教室、フラッグフットボール体験教室、選手とのふれあい、フィールドゴールチャレンジ等、参加型のイベントを開催しています。

・フィールドゴールチャレンジでは、参加者がキックしたボールがゴールポストに入ると、川崎ルフロンで抽選できる券がもらえるなど、川崎ルフロンとコラボした企画になっています。

□川崎ルフロンＤＡＹ

■Ｘリーグトークバトル in 川崎ルフロン

・秋季リーグ戦のシーズンイン直前には、川崎ルフロンのシンデレラステップで、Ｘリーグの監督やヘッドコーチによるＸリーグトークバトル in 川崎ルフロンが開催されます。人通りが多い場所で開催することから、ファンだけではなく、通行人や川崎ルフロンへの買い物客など、多くの人の目に留まっています。

□Ｘリーグトークバトル in 川崎ルフロン

３）市内で開催されるイベントへの参加

・市内で開催される各イベントに市内のアメリカンフットボールチームを中心に参加し、ＰＲ活動を行っています。

□かわさき市民まつり

□フェスティバルなかわさき

□かわさき楽大師

□川崎みなと祭り

□民家園通り商店会夏まつり

□あさお区民まつり

（２）関連する既往計画「川崎市スポーツ推進計画」について

- 川崎市では、平成３０年に「川崎市スポーツ推進計画」が改定されました。このなかでは、川崎市のスポーツの方向性を次のように示しています。
- 川崎市におけるアメリカンフットボールの展開についても、「川崎市スポーツ推進計画」を踏まえながら取組む必要があります。

① 川崎市スポーツ推進計画の体系（出典：川崎市スポーツ推進計画）

基本理念

子どもから高齢者まで、初心者からトップレベルで活躍するアスリートまで、市民一人ひとりがスポーツを身近に感じ、もっと楽しむことができるようスポーツを推進していくとともに、スポーツがまちに活力を与え、川崎がもっと魅力あふれる楽しいまちになるよう「川崎でスポーツを、スポーツで川崎を、もっと楽しく。」というキャッチフレーズのもと、スポーツを通じた市民生活の充実とスポーツを活用したまちづくりに取り組んでいきます。

基本目標

❶ スポーツを通じて誰もが自分らしく暮らし、支え合える社会を実現しよう
❷ スポーツを楽しむ子どもを地域みんなで育てよう

基本方針

川崎の特長と強みを活かしながら、市民の誰もがスポーツを楽しむことのできる、５つの「スポーツのまち」をつくります。

②基本方針

基本方針１　スポーツを身近に親しむことができるまち

・市民の誰もが、身近な場所でいつでもスポーツに接することができ、スポーツを身近に感じることができるまちを目指し、スポーツを「する」、「観る」、「支える」観点から、機会の拡充、安全を確保した環境づくりに取り組みます。

基本方針２　生涯にわたってスポーツを元気に楽しめるまち

・年齢や性別、障害のあるなしに関わらず、誰もが生涯にわたって日常的にスポーツに親しみ、楽しむことができ、体力の維持向上や健やかな心身を育むことができるまちを目指します。そのために、市民の体力や年齢、興味・関心の変化などに応じ、子どもから高齢者までライフステージに対応した多様なスポーツ施策を展開します。

基本方針３　スポーツを通して仲間とふれあい、地域での交流が深まるまち

・スポーツには、お互いを知り合い、交流を深めるきっかけとなるだけではなく、地域においてコミュニティを形成し、現代社会で希薄となった住民同士の関わりを生み出す効果も期待されます。こうしたスポーツの効果を活用し、スポーツを通し、地域でともに暮らす仲間とのふれあいやコミュニケーションを楽しみ、地域社会への参加のきっかけが得られ、地域での交流が深まるまちを目指します。

基本方針４　スポーツに挑戦する喜びがあるまち

・各種スポーツにおける技術力向上や記録・目標の達成に向けた競技力の強化などを行い、スポーツに挑戦し、その成果を発揮することができるまちを目指します。

基本方針５　スポーツを通して川崎の魅力・活力が感じられるまち

・川崎で活躍するトップチーム・トップアスリートと連携を図るなど、地域活動や地域の活力を高める取組を推進し、スポーツを通して、誰もが川崎の魅力・活力が感じられるまちを目指します。

③アメリカンフットボールに関わる取組内容

１）アメリカンフットボールと直接関係するもの

（４）アメリカンフットボールを活かしたまちづくり

本市は、アメリカンフットボール社会人Ｘリーグや学生リーグの公式戦がかねてより川崎球場で数多く開催されていたほか、複数の国内トップチームの練習拠点が市内にあるなど、もともとアメリカンフットボールが活発でなじみの深い土地柄です。

平成 19（2007）年にアジアで初めてとなるアメリカンフットボールワールドカップ大会が川崎で開催されたことを契機に、同年 11 月には、日本アメリカンフットボール協会と、アメリカンフットボールを今後のまちづくりにより活用していくための包括協定を締結しました。

こうした経緯や地域資源を踏まえ、多様な媒体・メディアを活用しながらアメリカンフットボールの魅力を広く市内外に発信しイメージアップを図るとともに、競技関係者と商店街が広報・ＰＲ・イベント等で連携し、競技の魅力の発信や地域経済の活性化につなげる取組を推進していきます。

併せて、教育的効果の高さが注目されているフラッグフットボールを市内学校教育の中に定着させ、子どもたちの健全育成につなげていきます。

主な取組	概要
アメリカンフットボール公式戦への市民招待	川崎市を拠点として数多くの試合が行われているアメリカンフットボールの迫力を間近で体感してもらうため、国内トップリーグのＸリーグ（日本社会人アメリカンフットボールリーグ）や関東大学アメリカンフットボールの公式戦に市民を招待します。
富士通スタジアム川崎（川崎富士見球技場）を活用した取組	アメリカンフットボールの聖地（活動拠点）となっている富士通スタジアム川崎（川崎富士見球技場）は、4,000 席程度の常設観客席を整備するなど、競技者と観客の双方が利用しやすい施設となっています。 日本アメリカンフットボール協会等の関係事業者と連携を図りながら、同スタジアムを活用し、「川崎アメフト屋台村」などの魅力発信イベントを開催しアメリカンフットボールを活用したまちづくりを進めます。
アメリカンフットボールを活用した商店街振興	川崎駅周辺の商店街での飲食割引やサービス特典を掲載した広報物の作成など、川崎球場で数多く開催されるアメリカンフットボールの試合をまちの賑わい・商店街振興につなげるための取組を進めます。
フラッグフットボールの普及・交流大会	アメリカンフットボールを基に誰でも安全に楽しめるよう考案されたフラッグフットボールについて、小学校の授業で取り組むとともに、子どもたちの交流大会を開催します。
アサヒビールシルバースターとの連携（川崎区）	川崎区内で活動している「アサヒビールシルバースター」と連携し、選手と子どもたちがふれあう体験イベントなどを実施します。
富士通フロンティアーズ・法政大学オレンジとの連携（中原区）	中原区内を活動拠点とする両チームとの連携を深め、アメリカンフットボール・フラッグフットボールの普及に取り組みます。

２）間接的に関連するもの

主な取組	概要
ふれあいスポーツ教室	子どもたちにスポーツの楽しさや素晴らしさを感じてもらうため、本市をホームタウンとして活躍する「かわさきスポーツパートナー」が小学校に出向き、子どもたちと選手が直接ふれあう取組を進めます。
「かわさきスポーツパートナー」のホームゲーム招待や交流イベント実施	本市をホームタウンとして活躍する「かわさきスポーツパートナー」の試合に市民を招待し、スポーツ観戦の醍醐味を直接肌で感じることのできる機会を提供します。 また、「かわさきスポーツパートナー」間で協力し、種目の枠を超えた連携や一堂に会する市民との交流イベントなどを実施し、地域に根差した活動を行います。
市内を拠点に活動するアスリートとの連携	本市をホームタウンとして活躍する「かわさきスポーツパートナー」のほか、様々な種目で市内各地区を拠点に活躍しているアスリートとの連携を進めます。
スポーツと連携した観光振興	国内外におけるスポーツツーリズムの高まりなどの動向を踏まえ、自転車で市内各地の名所を巡る「かわさきライドサーカス」などの体験型イベントや、「かわさきスポーツパートナー」と連携した取組など、川崎の魅力 を広く知ってもらい、本市の魅力を高めるまちづくりを進めます。
Ｂｕｙかわさきキャンペーンとの連携	「Ｂｕｙかわさきキャンペーン」と連携し、川崎フロンターレのホームゲームや大規模スポーツ大会などにおいて名産品を購入できる店舗を出店し、市内の優れた産物を市内外に広く紹介し、市内での消費拡大に取り組みます。

２．課題の整理

・上記を踏まえると、今後は次のような課題が挙げられます。

■川崎市民をはじめ市外の人にも川崎がアメリカンフットボールの拠点であることを知ってもらう必要がある

・リーグ戦等の対戦方法が充実したことや、チームの実力が上がったことなどから、魅力的な試合は増えています。それに伴い富士通スタジアム川崎が満員になる試合も増えてきました。ただし、来場する観戦者は、従前からのアメリカンフットボールファンや選手の家族、友人、同僚などがほとんどであり、観戦者層が広がらないようです。

・また、川崎市民にも、川崎がアメリカンフットボールの拠点であることが、まだまだ認知されていません。さらに、市外についてもアメリカンフットボールファンや関係者以外に知られていない状況です。

・このようなことから、川崎市民をはじめ市外の人にも川崎がアメリカンフットボールの拠点であることを知ってもらう必要があります。

■「川崎市と日本アメリカンフットボール協会との包括協定」の推進を行う必要がある

・川崎市とアメリカンフットボールが連携している根拠は、「川崎市と日本アメリカンフットボール協会との包括協定」になります。このため、包括協定の内容を川崎市とアメリカンフットボールが協働して取組む必要があります。

■「川崎市スポーツ推進計画」推進の一翼を担う必要がある

・2018 年３月に改定された「川崎市スポーツ推進計画」には、川崎におけるアメリカンフットボールの普及やアメリカンフットボールのまちづくりが記されています。このようなことから、これらを具体化し、実現する取組を行う必要があります。

■アメリカンフットボールを「する」「みる」「支える」の観点で考える

・平成 23 年に成立したスポーツ基本法やスポーツ立国戦略、合わせて「川崎市スポーツ推進計画」では、スポーツを発展させることや、より身近にするためには、「する」「みる」「支える」を重視する必要があると示されています。このようなことから、アメリカンフットボールにおいても、「する」「みる」「支える」の観点で具体的な取組を考える必要があります。

■アメリカンフットボールをもっと市民にとって身近なスポーツとする必要がある

・アメリカンフットボールが川崎でもっと普及するためには、多くの市民にアメリカンフットボールの魅力や社会的価値を知ってもらうなど、もっと身近なスポーツとする必要があります。

■地域経済活性化への寄与

・富士通スタジアム川崎近くの仲見世通商店街と、「アメフト×商店街」として連携しています。また、川崎駅前の川崎ルフロンなどと連携しイベントなどを開催しています。商店街や川崎ルフロンと連携することにより、商店街やルフロン等においてアメリカンフットボールの PR を、富士通スタジアム川崎おいて、商店街やルフロンの PR を行うなどの連携体制ができました。

・今後も引き続き、商店街やルフロンと連携し、さまざまなイベントなどの催しを行うことが必要です。また、他の商店街や大規模小売店舗などと連携の輪を広げていくことが求められます。併せて、地元企業とも連携を図り、富士通スタジアム川崎周辺や川崎の地域経済の発展に寄与していくことが重要です。

・アメリカンフットボールの試合には、多くのお客さんが来場することから、お客さんが富士通スタジアム川崎周辺のまちを回遊するようなしくみづくりが求められます。

■取組指針の定期的見直し

・2009 年に取組指針が策定されましたが、その後は特に見直しなどはありませんでした。しかし、時代は変化し取組指針の内容は、そぐわなくなったものもありました。このようなことから、当取組指針については、定期的に見直し、その時代にあったものにしていく必要があります。

第２章．当取組方針の基本目標と方向性

１．基本目標

・この先１０年についても、2007 年に締結した「川崎市と日本アメリカンフットボール協会との包括協定」に沿って取組むことが重要であると考えます。このため、当取組方針の基本目標については、協定に基づいて策定された「2009 年度取組指針」で示されたもの将来のイメージを引き継ぐものとします。

■アメリカンフットボールの拠点化の推進

・川崎で数多くのアメリカンフットボールの試合や指導者講習会などを開催することにより、多数の関係者及びファンが川崎を訪れるとともに、川崎がアメリカンフットボールにとって特別なまちであることが広く認識されている状況をつくっていきます。

・また、多くの子どもたちが川崎でアメリカンフットボールに取り組むなど、市民の間でもアメリカンフットボールが広く浸透している状況を目指します。

■アメリカンフットボールを活用した地域商業・経済・コミュニティの活性化

・アメリカンフットボールの試合開催を、地域商業・経済の活性化につなげていく取組を推進していきます。

・また、市内を拠点に活動しているアメリカンフットボールチームと連携した取組により、アメリカンフットボールを介した地域コミュニティの活性化を進めます。

■アメリカンフットボールと川崎の魅力発信・相互イメージアップ

・アメリカンフットボールの魅力を広く市民に発信し、様々な市民が競技に触れる機会を増やすための観戦環境の改善や整備、交流事業の実施を進めます。

・アメリカンフットボールを川崎の新たな魅力のひとつとして育て、内外に広く発信することにより、アメリカンフットボールと川崎市の相互イメージアップを図ります。

■フラッグフットボールを通じた子どもたちの健全育成と市民の“絆”の強化

・学習指導要領への掲載などにより、その教育的効果の高さが証明されているフラッグフットボールの普及を促進し、子どもたちの健全育成につなげていきます。

・また、誰でも気軽にできるという球技の特性を活かし、フラッグフットボールを通じた市民の交流を促進し、多様な市民のつながりの強化、地域コミュニティの活性化を図っていきます。

２．基本目標を具体化するために

・近年、文部科学省が策定した「スポーツ基本法」や「スポーツ基本計画」をはじめ、スポーツを発展させるためには、「する人」、「観る人」、「支える人」を増やすことが重要とされています。また、「川崎市スポーツ推進計画」においても、同様のことを重視しています。

・このようなことから、川崎におけるアメリカンフットボールのまちづくりを発展させるためには、「する人」、「観る人」、「支える人」を増やすことを目指します。

・なお、川崎のアメリカンフットボールにおける「する人」、「観る人」、「支える人」の定義については、川崎やアメリカンフットボールを取り巻く状況を踏まえると、次のように考えます。

「する人」

・子どもから高齢者まで、障害の有無や性別・国籍など関係なく、誰もが生涯に渡り、アメリカンフットボールを楽しむ人

「観る人」

・富士通スタジアム川崎でアメリカンフットボールの試合を観戦し、喜びや感動を共感する仲間

「支える人」

・アメリカンフットボールの指導者の育成と地域・商店街・企業・サポーター等でアメリカンフットボールを支える人

・川崎のスポーツにおいて、「する人」、「観る人」「支える人」を増やすことにより、「スポーツに親しみ、健幸で 100 歳（長寿）まで豊かに過ごせるまちをつくることができると考えられます。その１つとして、「アメリカンフットボールを楽しむことができる川崎」を目指します。

３．取組方針

・基本目標を具体化するために、次のような取組方針で行います。

取組方針１．川崎がアメリカンフットボールの拠点であることをさらに広く周知する

・川崎では川崎球場時代から含めて、多くの試合が開催されてきました。また、2007 年のワールドカップの開催、富士通スタジアム川崎の整備など、川崎がアメリカンフットボールの拠点の環境づくりが進められてきています。しかし、市民への認知については、まだまだの状況です。
・このようなことから、川崎市がアメリカンフットボールの拠点であることを、市内外にさらに広く周知し、多くの人に知ってもらい、さらに来てもらえるような取組を行います。

取組方針２．川崎市と協働で「アメリカンフットボールを活かしたまちづくり」を進める

・2007 年に川崎市と日本アメリカンフットボール協会において、アメリカンフットボールを今後のまちづくりにより活用していくための包括協定を締結しました。このような背景もあり、2018 年３月に策定された「川崎市スポーツ推進計画」においても、これに基づく取組が記されています。
・このようなことから、川崎市と協働で「アメリカンフットボールを活かしたまちづくり」を進める取組を行います。

取組方針３．アメリカンフットボールをもっと市民にとって身近なスポーツとする

・アメリカンフットボールはルールが難しいなど、まだまだ市民にとって身近なスポーツになっていないようです。スポーツが愛着を持たれるためには、そのスポーツをもっと市民にとって身近なものにする必要があります。
・このようなことから、アメリカンフットボールをもっと市民にとって身近なものになるような取組を行います。

取組方針４．富士通スタジアム川崎を市民が誇れる施設とする

・川崎が拠点であるためには、試合が開催される富士通スタジアム川崎が市民から愛着を持たれ、誇れる施設であることが必要です。そのためには、まず、試合があるときには必ず、スタジアムを “試合以外” でも楽しめる場にし、観戦価値を高めてリピーターを増やす施策を行う必要があります。
・富士通スタジアム川崎と一体となって、市民が誇れる施設となる取組を行います。

取組方針５．観戦者に川崎の魅力を知ってもらう

・近年のスタジアムは、ただ試合を観るだけでなく、そのスタジアムやその周辺でさまざまな楽しみがあるように工夫されており、これによってファンを増やすことや、そのまちの魅力向上につながり、スポーツとまちが良い関係を築くことができます。
・このようなことから、富士通スタジアム川崎においても試合観戦だけでなく、その周辺地域や川崎全体の魅力知ってもらい、地域経済に寄与できるような活動を行います。この活動も、富士通スタジアム川崎と一体となって、取組を行います。

取組方針６．魅力的な試合を開催する

・アメリカンフットボールの拠点となるためには、選手権大会やビッグゲームが数多く開催されることが必要です。また、その選手権大会やビッグゲームにたくさんの観戦者に来てもらう必要があります。
・このようなことから、多くの選手権大会やビッグゲームを開催するとともに、その試合にたくさんの人が来てもらえるような取組を行います。

取組方針７．フラッグフットボールを通じた子どもたちの健全育成と市民の“絆”の強化を図る

・新しい学習指導要領にフラッグフットボールが再度掲載され、その教育的効果の高さが証明されています。今後は、さらにわかりやすく、楽しく、夢中になれるフラッグフットボールの普及を促進し、子どもたちの健全育成につなげていきます。
・また、誰でも気軽にできるという特性を活かし、フラッグフットボールを通じた市民の交流を促進し、多様な市民のつながりの強化、地域コミュニティの活性化を図っていきます。

第３章．具体的な取組について

１．取組内容

取組方針１．川崎がアメリカンフットボールの拠点であることをさらに広く周知する

■取組内容
（１）各団体のホームページを活用した周知
（２）他都市を拠点とするチームの川崎での活動の支援
（３）富士通スタジアム川崎目線による告知ツール開発
（４）川崎市のメディアの活用
（５）富士通スタジアム川崎のさらなる拠点化の推進
（６）情報発信体制の強化
（７）地元の大規模店舗との連携の発展

（１）各団体のホームページを活用した周知

・川崎がアメリカンフットボールの拠点であること多くの人に知ってもらうためには、各団体が持っているホームページで発信することが重要と言えます。このようなことから、JAFAや川崎市などの既存のホームページを活用して積極的にＰＲします。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○川崎市視点でアメリカンフットボールを紹介するホームページをつくる。 ○上記ホームページに JAFA ホームページ　TOP にバナーを貼りリンクする
中･長期(2022 年～2029 年)	○2019 年～2021 年の状況をみながら、新たな取り組みを検討する。

（2）他都市を拠点とするチームの川崎での活動の支援

・川崎がアメリカンフットボールの拠点であることを多くの人に感じてもらうためには、川崎が拠点でないチームも川崎で活動や取組をできる環境をつくる必要があります。このようなことから、他都市を拠点とするチームで、川崎で活動や取組を希望するチームに対して、川崎で活動しやすいように支援を行います。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○川崎市アメリカンフットボール協会の再構成を行う（社会人、学生、高校、フラッグフットボールチーム等の参加、連携体制の構築）
中・長期（2022 年～2029 年）	○川崎市アメリカンフットボール協会主催の交流試合の開催する

（3）富士通スタジアム川崎目線による告知ツール開発

・富士通スタジアム川崎では、多くの市民に愛され来場してもらえるように、普段から多くの情報を発信しています。アメリカンフットボールにおいても富士通スタジアム川崎と連携しながら情報発信を行い、多くの市民やファンに来場してもらうことを目指します。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○富士通スタジアム川崎の発信力をフルに発揮していただけるように、アメリカンフットボール組織が、統合的な情報発信の仕組みを確立する。
中・長期（2022 年～2029 年）	○2019 年～2021 年の状況をみながら、新たな取り組みを検討する。

（4）川崎市のメディアの活用

・川崎市では、各種メディアを持っています。これらは多くの市民の目に留まり知らせる力があります。このため、川崎市の協力を得て川崎市の持つ各種メディアを活用して、市民に広く PR します。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○市民とアメフトを繋げるような観戦企画、プレゼント企画等の実施
中・長期（2022 年～2029 年）	○2019 年～2021 年の状況をみながら、新たな取り組みを検討する。

（5）富士通スタジアム川崎のさらなる拠点化の推進

・富士通スタジアム川崎を、アメリカンフットボールの拠点とする活動をさらに推進するためには、スタジアムを管理する指定管理団体からも協力を得る必要があります。このようなことから、引き続き強固な連携・協力体制を築きます。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○すべての試合やイベントの情報をタイムリーに共有し、集客施策に協働で取り組めるようにする
中・長期（2022 年～2029 年）	○2019 年～2021 年の状況をみながら、新たな取り組みを検討する。

（6）情報発信体制の強化

・川崎がアメリカンフットボールの拠点であることや魅力を市内外の人に広く知ってもらうためには、情報発信体制をさらに強化することが必要です。このようなことから、情報発信については、川崎市のシティプロモーションと密接に連携した体制をつくります。このため、JAFA（あるいはNFA）に、情報発信セクションを設置します。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019年～2021年）	○アメリカンフットボール関連組織の専門の情報発信体制を確立する。
中•長期(2022年～2029年)	○2019年～2021年の状況をみながら、新たな取り組みを検討する。

（7）地元の大規模店舗との連携の発展

・川崎駅周辺には、市内外から多くの人が集まるショッピングセンターなどの大型商業施設やシネコンなどの映画館がたくさんあり、いつもにぎわっています。川崎がアメリカンフットボールの拠点であることを知ってもらうためには、ここに買い物や遊びに来る人をターゲットにすることは有効であると考えます。このようなことから、川崎駅周辺に買い物や遊びに来る人にＰＲできるように、大規模商業施設との連携を積極的に図っていきます。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019年～2021年）	○川崎ルフロンとの連携を継続する。 ○川崎ルフロンとのコラボイベントの充実・発展させる。
中•長期(2022年～2029年)	○連携する大型商業施設を増やすことを検討する。

取組方針２．
川崎市と協働で「アメリカンフットボールを活かしたまちづくり」を進める

■取組内容
（１）川崎市スポーツ推進計画の推進
（２）ホームタウンスポーツチームとの連携
（３）既存のガイドマップやチラシの活用

（１）川崎市スポーツ推進計画の推進

・平成 30 年に川崎市スポーツ推進計画が改定されました。この推進にあたっては、アメリカンフットボール、フラッグフットボールにおいても一役を担っています。このようなことから、川崎市スポーツ推進計画に関わる取組を実施します。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○川崎市スポーツ推進計画のアメリカンフットボールに関連する内容を実施する。
中・長期（2022 年～2029 年）	○2019 年～2021 年の状況をみながら、取組の充実を図る。

（２）ホームタウンスポーツチームとの連携

・川崎のスポーツをもっと盛り上げるためには、競技が異なっていてもホームタウンスポーツ同士の交流や連携が必要であると考えます。このようなことから、川崎フロンターレや川崎ブレイブサンダースなどと交流や連携を深めていき、それぞれの試合等で、ホームタウンスポーツ同士のＰＲを行います。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○他スポーツとのコラボ方法を検討する。 ○ホームタウンスポーツの団体が連携したまちづくり活動を検討する。
中・長期（2022 年～2029 年）	○他スポーツとのコラボ企画の実施を検討する。

（3）既存のガイドマップやチラシの活用

・これまで川崎を PR するためのチラシや冊子、ガイドマップなどが多数作成されています。このようなチラシや冊子、ガイドマップをスタジアムに配架し、アメリカンフットボールを観に来た人が気軽に手に取ってもらえるようにします。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○富士通スタジアム川崎内に、既存のチラシや冊子を置くラックの設置する。
中・長期（2022 年～2029 年）	○SNS 等の媒体を利用した周辺地域の情報提供と拡散を行う。 ○富士通スタジアム川崎に川崎観光ガイドセンターの機能付加することの可能性について検討する。

取組方針３．
アメリカンフットボールをもっと市民にとって身近なスポーツとする

■取組内容
（１）市内で開催されるイベント等への参加
（２）市内施設での周知の充実
（３）川崎区民を巻き込んだイベントの開催
（４）小学校のフラッグフットボール授業を活かした周知
（５）アメリカンフットボール観戦講座の充実
（６）小学校にあるフラッグフットボール備品の充実
（７）アメリカンフットボール選手による地域貢献活動
（８）地元のゆかりある選手のフラッグフットボールへの参加

（１）市内で開催されるイベント等への参加

・アメリカンフットボールの魅力を市民に伝えるためには、市民にとってアメリカンフットボールが身近なスポーツであることが必要です。このようなことから、引き続き、市内で開催されるイベント等に積極的に参加し、観戦講座等で市民とのふれあいの場をつくることに努めます。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○これまで通り、かわさき市民まつりをはじめとした各区の区民祭や市内で開催されるイベントなどのイベントへ参加を継続する。 ○さらに参加できそうな市内で開催されるイベントを洗い出しを行う。
中・長期（2022 年～2029 年）	○2019 年～2021 年の状況をみながら、新たな取り組みを検討する。

（２）市内施設での周知の充実

・市内の公共施設や市バスの中で、富士通スタジアム川崎で開催される試合をポスターなどでＰＲしてきました。今後も引き続き市内公共施設においてＰＲすることや、公共性が高い施設でのＰＲを展開します。またポスターだけでなく、映像を用いるなど、より多くの市民の興味を持ってもらえるような工夫をします。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○公共施設等でのポスターやリーフレットなどを配布する。
中･長期(2022 年～2029 年)	○公共施設等にあるモニターを使って､アメリカンフットボールの試合中継やダイジェスト版の放映の可能性を検討する。

（３）川崎区民を巻き込んだイベントの開催

・富士通スタジアム川崎のお膝下である川崎区民に積極的に足を運んでもらえる仕組みが求められます。このようなことから、川崎区の方々と協働で試合をイベント化し､「年に一度は必ず訪れていただく」ようにします。例えば、かわさき市民まつりが例年秋季リーグ戦のシーズンと重なることから、かわさき市民まつりの期間中に、試合を開催することなどが考えられます。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○かわさき市民まつりに合わせて､アメリカンフットボールをアピールする企画を開催する。 ○かわさき市民まつり内でフラッグフットボール体験企画実施の可能性を検討する。
中･長期(2022 年～2029 年)	○かわさき市民まつりに合わせた公式戦開催の可能性を検討する。 ○かわさき市民まつり内でアメリカンフットフットボール観戦講座の開催の可能性を検討する。

（4）小学校のフラッグフットボール授業を活かした周知

・川崎市では、現在 100 校を超える小学校でフラッグフットボールの巡回授業が行われています。このようなことから、これを活かして小学生やさらにその保護者などにアメリカンフットボールの魅力を伝えます。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○フラッグフットボールとアメリカンフットボールの関係性がわかる資料やリーフレットを作成し、小学校で配布することを検討する。 ○巡回授業の講師に、アメリカンフットボール選手が参加する仕組みをつくる。 ○市民参加の競技大会を開催する。
中・長期（2022 年～2029 年）	○近隣市町村を巻き込んだ競技大会を開催する。

（5）アメリカンフットボール観戦講座の充実

・現在、アメリカンフットボール観戦講座が開催されており、好評で参加希望者がたくさんいます。このようなことから、観戦講座の回数や開催場所を増やします。講師については、フラッグフットボール指導員などが行うことが考えられます。また、講座の名前を「アメリカンフットボールを１００倍楽しめる講座」など、市民になじみやすく話題性があるものにします。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○試合会場で初心者向け講座開催を開催する。 ○アメリカンフットボール観戦講座ができす講師を増やし、講座の回数を増やす。
中・長期（2022 年～2029 年）	○試合会場で選手や若手 OB 等による個別解説付き講座開催を検討する。

（6）小学校にあるフラッグフットボール備品の充実

・10 年以上フラッグフットボール巡回指導を続けていますが、備品が傷んでいるものを使っている学校が見受けられます。フラッグフットボールに興味を持ってもらうためにも、それなりにしっかりした備品が各学校に揃っていることが重要です。このようなことから、巡回指導員が各学校の備品の状況を把握します。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○巡回指導員による各小学校の備品の把握調査を行う。
中･長期(2022 年～2029 年)	○小学校のフラッグフットボール備品の予算化及び買替えを検討する。

（7）アメリカンフットボール選手による地域貢献活動

・市民がアメリカンフットボールを身近に感じてもらうためには、選手等が社会貢献活動やまちづくり活動に参加することも１つの方法です。例えば、川崎駅周辺商店街での客引き防止の啓発キャンペーン活動や、清掃活動などに選手が参加できるような環境整備や選手への支援を行います。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○アメリカンフットボールチームの、清掃活動等の社会貢献活動への参加を促す。（川崎駅周辺、武蔵新城駅周辺　等） ○各チームのグラウンド周辺での清掃活動を促す。
中･長期(2022 年～2029 年)	○2019 年～2021 年の状況をみながら、新たな取り組みを検討する。

（8）地元のゆかりある選手のフラッグフットボールへの参加

・現役アメリカンフットボール選手のなかには、川崎市出身で小学生や中学生のころに、フラッグフットボールを体験している人も多いようです。このようなことから、地元のゆかりある選手が参加する等企画を工夫しながら継続して実施します。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○「アメフト選手母校へ帰る」企画・実施（川崎出身のアメリカンフットボール選手が母校でフラッグを教える）
中•長期(2022 年～2029 年)	○川崎出身のアメリカンフットボール選手やＯＢが､市内でフラッグフットボールチームのコーチを務められる環境をつくる。

取組方針４．
富士通スタジアム川崎を市民が誇れる施設とする

■取組内容
（１）富士通スタジアム川崎を日本一観やすいスタジアムにする
（２）日本代表チームの拠点として活用
（３）観戦に来た子どもが飽きない観戦環境づくり

（１）富士通スタジアム川崎を日本一観やすいスタジアムにする

・富士通スタジアム川崎でのアメリカンフットボールの試合の観やすさは好評ですが、さらに観やすさを追求することにより、多くの人が来場することが望めます。たとえば、大型ビジョンの設置を行うなど、富士通スタジアム川崎を「日本で最もアメリカンフットボールを見やすいスタジアム」になるように働きかけます。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○もっと見やすくなるように既存得点板の整備を検討する。 ○富士通スタジアム川崎内のアメリカンフットボール関連展示品のさらなる充実を図る。
中・長期（2022 年～2029 年）	○富士通スタジアム川崎内に大型ビジョン設置の可能性を検討する。（予算面、技術面等）

（２）日本代表チームの拠点として活用

・近年、アメリカンフットボールやフラッグフットボールの国際試合が盛んになっていますが、関係者やファン以外の認知はあまり高くありません。このようなことから、日本代表チームの壮行試合、練習会場として市内施設を利用し、多くの人に知ってもらう機会をつくります。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○富士通スタジアム川崎内の日本代表関連展示品のさらなる充実を図る。
中・長期（2022 年～2029 年）	○練習会場としての公開練習や記者会見の開催の可能性を検討する。

（3）観戦に来た子どもが飽きない観戦環境づくり

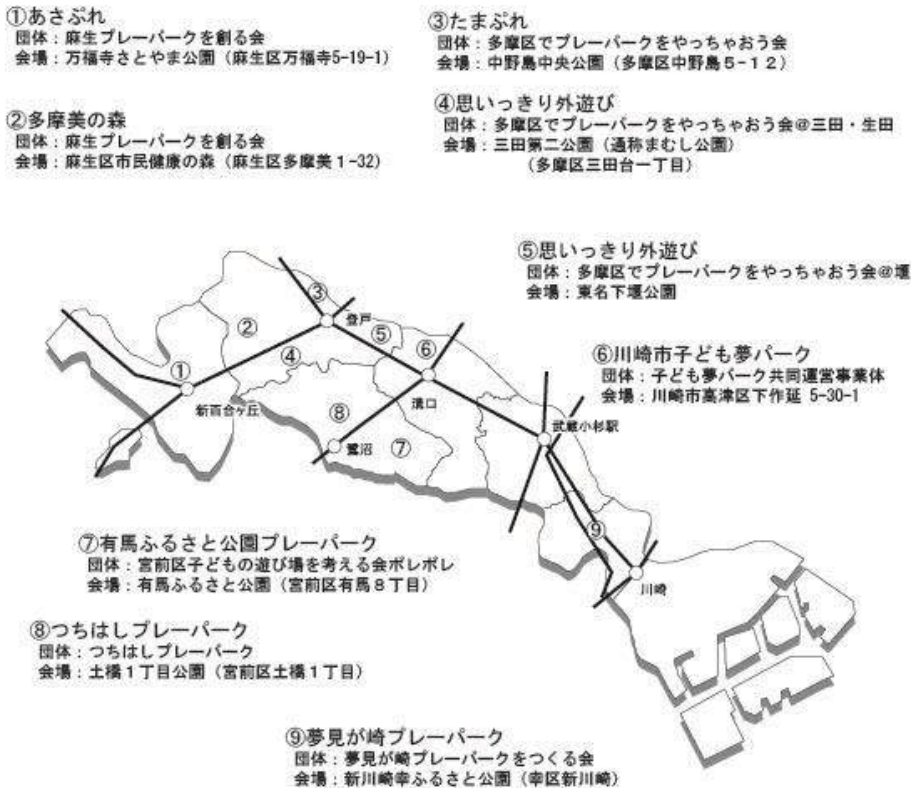
・富士通スタジアム川崎に家族で観戦に来る人がいますが、小さな子どもは飽きてしまうことが多いようです。家族で観戦に来てもおとなも子どもも楽しくスタジアムで過ごせる環境をつくることを検討します。子どもが普段から富士通スタジアム川崎へ遊びに行きたいと思ってもらえるような取組を行います。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○現在行われている川崎ルフロンデーのような企画を継続する。合わせて開催回数を増やす。
中•長期(2022 年～2029 年)	○川崎市内で活動する冒険遊び場（プレーパーク）団体などとの連携を検討する。

■川崎市内の子どもの遊び場づくりに関わる団体

・川崎市内では、下記にあるような団体が子どもの遊び場づくりに取り組んでいます。このような団体と連携して、富士通スタジアム川崎内で子どもの遊び場を開催することが考えられます。



取組方針５．
観戦者に川崎の魅力を知ってもらう

■取組内容
（１）アメフト屋台村の継続と発展
（２）地元企業との連携
（３）観戦客のスタジアム周辺の飲食店等の利用促進
（４）スポンサーの獲得

（１）アメフト屋台村の継続と発展

・これまで、近隣商店街の店舗様のご協力を得て、富士通スタジアム川崎内での「川崎アメフト屋台村」を開催していますが、かなり好評であり、成果が現れていると思われます。このため、さらにアメフト屋台村を継続発展させ、川崎区民を中心に多くの人に知ってもらうような取組を行います。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○屋台村の告知拡大に取組、利用拡大を目指す。
中･長期(2022 年～2029 年)	○屋台村参加店を増やすことを検討する。

（２）地元産業や農業との連携

・アメリカンフットボールと地元産業、農業等が関係性をつくり、市民生活への貢献を行うことにより、お互いの価値が高まることが考えられます。このようなことから、地元産業と連携する仕組をつくります。

＜具体的には＞

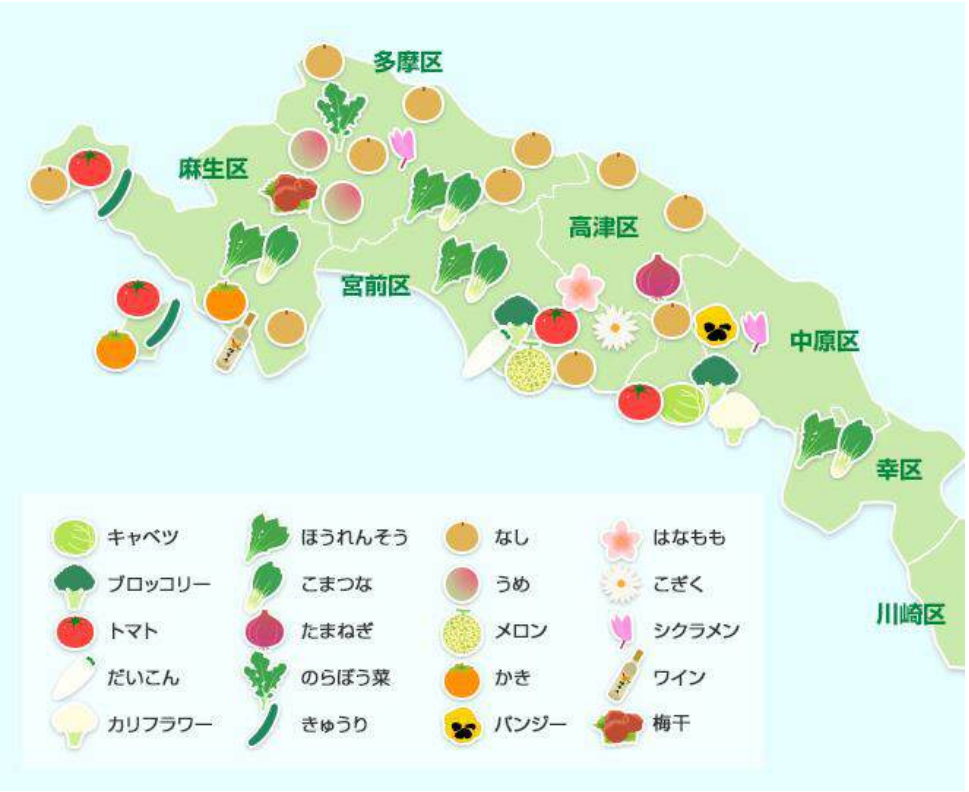
時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○市内工業や農業など､アメリカンフットボールと連携ができそうなものや販売方法等の調査・検討する。
中･長期(2022 年～2029 年)	○試合会場等で､地元産業や農産物などの販売実施の可能性を検討する。

■川崎は農業が盛ん

・川崎は工業というイメージがありますが、北部の区では農業が盛んであり、名産物がたくさんあります。また、JA セレサ川崎が運営する「セレサモス」や農家の直売所には、新鮮な野菜を求める市民がいつもたくさん集まり、あっという間に売れてしまうほど、需要が高いです。

・一方で、富士通スタジアム川崎がある川崎区では農地がありません。このため、富士通スタジアム川崎で、川崎産の農産物を売り出したら、珍しいこともあり、多くの区民が買いにくることが想定されます。

□川崎の名産物



出典：JA セレサ川崎ホームページ

（3）観戦客のスタジアム周辺の飲食店等の利用促進

・富士通スタジアム川崎の観客が帰りに、周辺の飲食店などに足を運んでもらうことが重要です。このようなことから、観客に対して飲食店利用促進するためのクーポンサービスなどを配布できるような仕組みをつくります。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○選手や観客への地元飲食店の紹介を行い、利用してもらうように促す。
中・長期（2022 年～2029 年）	○スマートフォンを利用したクーポン発信の検討を行う。

（4）スポンサーの獲得

・スポンサー（サポーター）を増やすためには、スポンサーする企業側のメリットを把握する必要があります。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○地元企業とタイアップした広報活動の実施
中・長期（2022 年～2029 年）	○2019 年～2021 年の状況をみながら、新たな取り組みを検討する。

取組方針６．魅力的な試合を開催する

■取組内容
（１）ビッグゲームの開催
（２）ビッグゲームの丁寧な広報

（１）ビッグゲームの開催

・現在の富士通スタジアム川崎では、リーグ戦を中心に開催されていますが、選手権試合やそれに近い試合についても積極的に行うようにします。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○観客目線ですべてのアメリカンフットボールの試合を案内する。
中•長期(2022 年～2029 年)	○日本代表練習や壮行試合などを開催することを検討する。

（２）ビッグゲームの丁寧な広報

・市内でせっかくビッグゲームが多く開催されても、多くの人に知られていないと、観客が増えません。このようなことから、ビッグゲームを開催し市民に広く告知、集客に結びつけます。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○市民への積極的な PR や観戦初心者への解説などの取組を拡大し､広く市民にアメリカンフットボールの魅力を伝える。
中•長期(2022 年～2029 年)	○川崎アメリカンフットボールファンクラブのようなものをつくり、ファンのリスト化を行い、ファンへの直接情報発信を行うことを検討する。

取組方針７．
フラッグフットボールを通じた子どもたちの健全育成と市民の“絆”の強化を図る

・フラッグフットボールは 2017 年に改定された小学校学習指導要領に、低学年の鬼遊びを経て、中学年・高学年で扱うことができるよう再度明記されたことから、その教育的効果の高さが証明されています。そこで、運動が苦手な子どもでも「わかりやすく、楽しく、夢中になれるフラッグフットボール」をめざし、子どもたちの健全育成につなげていきます。
・フラッグフットボールは、誰でも気軽にできるという球技の特性を活かし、する人・観る人・支える人を増やし、フラッグフットボールを通じた市民の交流を促進し、多様な市民のつながりの強化、地域コミュニティの活性化を図っていきます。

■取組内容
（１）フラッグフットボールを「する人・観る人・支える人（育てる人）」の増加と子どもたちの健全育成
（２）フラッグフットボールの拠点化の促進と「する人・観る人・支える人（育てる人）」を増やす
（３）フラッグフットボールを通じた市民の交流の推進
（４）車いすスポーツとしてのホイールチェアーフットボールの普及

（１）フラッグフットボールを「する人・観る人・支える人（育てる人）」の増加と子どもたちの健全育成

①子どもたちへわかりやすいフラッグフットボールの魅力の配信

・2017 年に改定され 2021 年に全面実施される学習指導要領に基づき、「分かりやすく・楽しく・夢中になれる」フラッグフットボールをめざし、体力の向上や健やかな心身を育むとともに「する人・観る人・支える人（育てる人）」を増やします。

②ゾーン得点方法のルールでのフラッグフットボールの市内交流大会の活性化

・大会の運営にも子どもたちを参加させることで、「自主的に活動する、規則を守る、互いを尊重する、勝敗を受けいれる」など学ぶ力を身につけることで健やかな心身を育むことができます。このことから、これを子どもたちに伝えるために、勝利チームのみならず、フェアープレー・マナーの良いチームを表彰します。

◎Spring CUP　/　◎Autumn CUP（川崎市アメリカンフットボール協会主催）

◎藤子・F・不二雄・ミュージアム CUP（川崎市主催）

◎中原区小学生フラッグ交流大会（中原区役所主催）

③フラッグフットボールの地域定着

・フラッグフットボールをこども文化センターやわくわくプラザなどに広げ「する人・観る人・支える人（育てる人）」を増やし、地域での定着を図ります。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○分かりやすく・楽しく・夢中になれるフラッグフットボールを促進する。 ○市内交流大会の活性化を行う。 ○フラッグフットボールに取り組む団体が増加する取組を行う。
中・長期（2022 年～2029 年）	○フラッグフットボールを教えられる市民を増やし、市内外で活躍してもらう環境をつくる。

（2）フラッグフットボールの拠点化の促進と「する人・観る人・支える人（育てる人）」を増やす

①全国レベルのフラッグフットボールの大会を開催し、「する人・観る人・支える人（育てる人）」を増加

・引き続き、NFL FLAG FINAL や THE HUDDLE BOL 等の全国レベルの大会を開催し、フラッグフットボールの「する人・観る人・支える人（育てる人）」を増やします。

・また、フラッグフットボール世界大会である、IFAF フラッグフットボール世界大会の誘致にも挑戦することを検討します。

②指導者「支える人（育てる人）」育成の強化

・さらにフラッグフットボールを広めるためには、教えられる人（指導者）が足りないと言われています。このため、川崎市内で指導者講習会を積極的に開催し、指導者「支える人（育てる人）」育成の強化を図ります。

・指導者講習会は、川崎市民に限らず全国誰でも参加できるようにします。

③フラッグフットボールとアメリカンフットボールの連携

・フラッグフットボールは、アメリカンフットボールを誰でもが手軽に行えるよう工夫したスポーツであることから、アメリカンフットボール選手や関係者が、子どもたちにフラッグフットボールの魅力を発信することにより、アメリカンフットボール自体の魅力の周知につながります。このようなことから、アメリカンフットボール選手や関係者がフラッグフットボールの魅力や社会的、教育的価値を発信するとともに「する人・観る人・支える人（育てる人）」を増やします。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○分かりやすく・楽しく・夢中になれるフラッグフットボールを促進する。 ○市内交流大会に参加するチームを増やすなど、活性化を図る。 ○フラッグフットボールに取り組む団体が増加する取組を行う。 ○NFL FLAG FINAL や THE HUDDLE BOL 等の全国レベルの大会を開催する。
中・長期（2022 年～2029 年）	○IFAF フラッグフットボール世界大会の誘致の検討を行う。 ○川崎出身のアメフト選手やＯＢが、市内でフラッグフットボールチームのコーチを務められる環境をつくる

（3）フラッグフットボールを通じた市民の交流の推進

・フラッグフットボールは、年齢・性別・障害の有無に関わらず、誰でも気軽にできるという球技の特性を活かし、体力の維持向上や健やかな心身を育み「する人・観る人・支える人」を増やしながら市民の交流を促進し、多様な市民の“絆”を強化し、地域コミュニティの活性化を図ります。

・各区のスポーツ施設で、年齢・性別・障害の有無に関わらず誰でも気軽に参加できる体験会を開催します。

・合わせて、子どもから大人まで 4 カテゴリー（キッズ・ジュニア・レーディース・シニア）の大会を開催します。

・地域の企業や商店街との連携をさらに深めていきます。

＜具体的には＞

時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○各区のスポーツ施設で、年齢・性別・障害の有無に関わらず誰でも気軽に参加できる体験会の開催 ○子どもから大人まで 4 カテゴリー（小学生・中学生・高校生以上の女性・高校生以上の男女）の大会を開催
中•長期(2022 年～2029 年)	○2019 年～2021 年の状況をみながら、新たな取り組みを検討する。

（4）車いすスポーツとしてのホイールチェアーフットボールの普及

・近年、富士通スタジアムの向かいにあるカルッツかわさきでは、障害のある方と健常者が一緒にフットボールを楽しめるホイールチェアーフットボールが試験的に開催されています。

・2020 年の東京パラリンピックの開催等から、障害の有無に関わらず一緒に楽しめるスポーツが求められています。このようなことから、ホイールチェアーフットボールを多くの市民に知ってもらうことや、楽しんでもらえる環境づくりに取り組みます。

＜具体的には＞

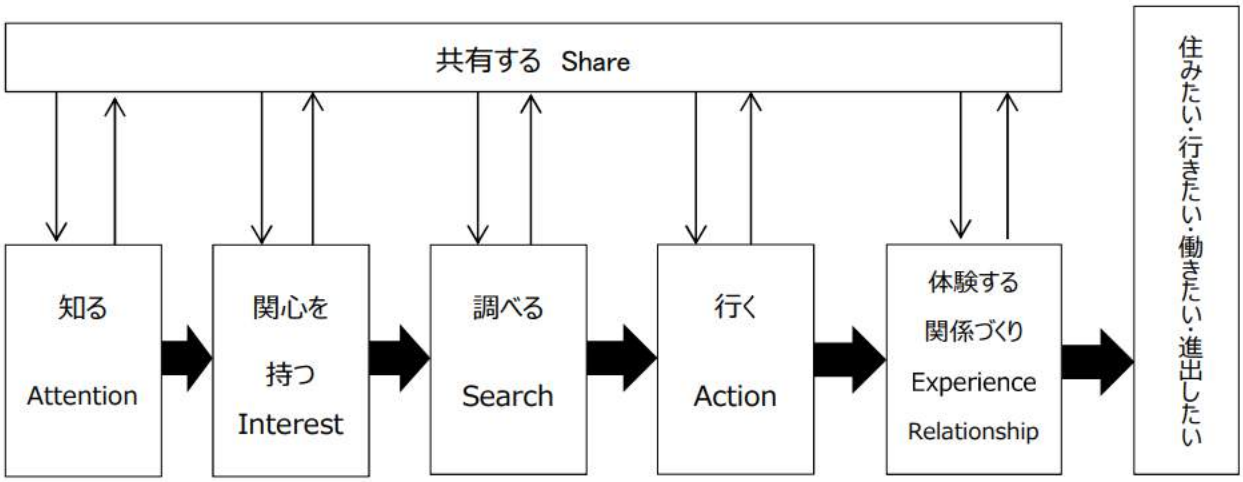
時期	具体的な取組
短期（2019 年～2021 年）	○ホイールチェアーフットボールの PR を行う。チラシなどを作成して、市内の学校に配布する。 ○ホイールチェアーフットボールの体験会を市内各所で開催する。
中•長期(2022 年～2029 年)	○ホイールチェアーフットボール市民大会を開催する。

２．コミュニティ戦略を踏まえたＰＲ活動

（１）コミュニティ戦略とは

・ＰＲ活動を展開していく際に、「どの段階の人々に」、「どの手段を活用して」、魅力情報を発信していくかが重要であることが重要です。次の図は電通 abic project(2009)の「『AISAS（アイサス：Attention,Interest,Search,Action,Share)』に『体験（Experience)』『関係性（Relationship)』」を加えたモデル”をもとに作成した、情報を得ることによって地域への居住や来訪等に対する人々の意識・行動が変化していくことを示した図です。大きな流れとしては、左から右へ「知る」、「関心を持つ」、「調べる」、「行く」、「体験する・関係づくり」の段階を経て、「住みたい・行きたい・働きたい・進出（企業など）したい」という意向へとつながっていきます。また、各段階において他の段階とも情報の共有がなされており、相互に影響を与えています。

・川崎市におけるアメリカンフットボールも、これに沿ったＰＲ方法を検討することが考えられます。



出典：川崎市シティプロモーション戦略プラン

（2）コミュニティ戦略を踏まえた取組

・先に示した AISAS を踏まえると、次のようなコミュニティ戦略が考えられます。

＜段階ごとの考えられる取組＞

段階	考えられる取組内容
知る	○川崎市のメディアを活用したアメリカンフットボールのＰＲ ○フェイスブックやツイッターなどの SNS を活用した情報発信及び拡散 ○アメフトトークバトルの継続開催 ○かわさき市民まつりでのアメリカンフットボールの試合の開催 ○ホイールチェアーフットボールのチラシなどを作成して、市内の学校に配布
関心を持つ	○観戦講習会、市民招待による観戦動機付け ○ストリーミング放送による観戦体験 ○「アメフト選手母校に帰る」の開催 ○フラッグフットボールの教育的価値、社会的価値の発信
調べる	○富士通スタジアム川崎や市内アメリカンフットボール･フラッグフットボールチーム等の情報発信 ○アメリカンフットボールのルールや魅力､楽しみ方をわかりやすく表現したホームページの充実 ○川崎市内で開催される試合に特化したホームページの作成
行く	○アメフト屋台村等来場者の満足度アップの施策実施 ○周辺飲食店の充実や割引、行ったときの楽しみを増やす ○選手権や国際試合などのビッグゲームの誘致 ○市内各所のおける参加ハードルが低いフラッグフットボール大会の開催
体験する・関係づくり	○選手に会える、チアリーダーに会える、観客への歓待 ○選手や監督へのインタビュー、握手会 ○富士通スタジアム川崎のフィールドでのフラッグフットボールやアメリカンフットボール体験会の開催
共有する	○観客等が SNS などで拡散したくなるような企画や環境づくり、話題づくり

３．各競技の連携した取組

（１）連携の必要性について

・川崎市は、「アメリカンフットボールを活用したまちづくり」を展開しており、トップチームの試合が観戦できるだけでなく、小学生たちが学校でフラッグフットボールを通じた育ちを展開していることや、車椅子を使った「ホイールチェアーフットボール」のイベントを開催し障害の有無に関係なく楽しむことなど、スポーツの子ども達への普及についてさまざまな側面から展開しています。さらに、単なるスポーツ普及だけでなく川崎駅周辺商店街と連携して地域経済の発展や競技を広める普及者、指導者の育成を行っています。

・しかし、アメリカンフットボール、フラッグフットボール、ホイールチェアーフットボールのイベントは、それぞれ独立して行われることが多く、あまり連携しているとは言えない状況です。このため、これらが一体化して推進することにより、多くの市民への効果が得られると思われます。

・このようなことから、富士通スタジアム川崎で行われるＸリーグや大学生の試合や小学校で開催しているフラッグフットボール巡回授業、市内各地のスポーツセンターや小学校で開催しているホイールチェアーフットボール体験会などが連携し、年間で普及・啓発活動を行いながら、最終的にフェスティバルを行い、３つのアメリカンフットボール競技を通し、市民との交流が図れることを目標とします。

＜それぞれのフットボールの効果＞

アメリカンフットボール	・試合観戦を通じたトップレベルの技術の体感 ・チームを応援することにより、地元への誇りや愛着の醸成 ・スタジアム周辺の活性化、経済効果
フラッグフットボール	・子どもの健全育成
ホイールチェアーフットボール	・障害への理解・共生の促進

・３つのアメリカンフットボールが連携することにより、より「最幸のまち・かわさき」に繋がっていくと考えます。

（２）連携したプロジェクトの運営について

・３つのアメリカンフットボール団体だけでなく、施設管理者、学校関係者、商店会関係者などとも連携し、次のようなことに取り組みます。

〇小学校での巡回授業で配布する資料を制作し、３つのアメリカンフットボール競技や活動を紹介
〇車椅子で利用しやすいお店を認定し、ステッカーを貼り啓発リーフレットを配布し障がい者イベント開催時にマップなどを配布
〇富士通スタジアムの試合やイベント時での啓発イベント
〇カルッツかわさきなどで映像を流し、クラブハウスなどで啓発展示

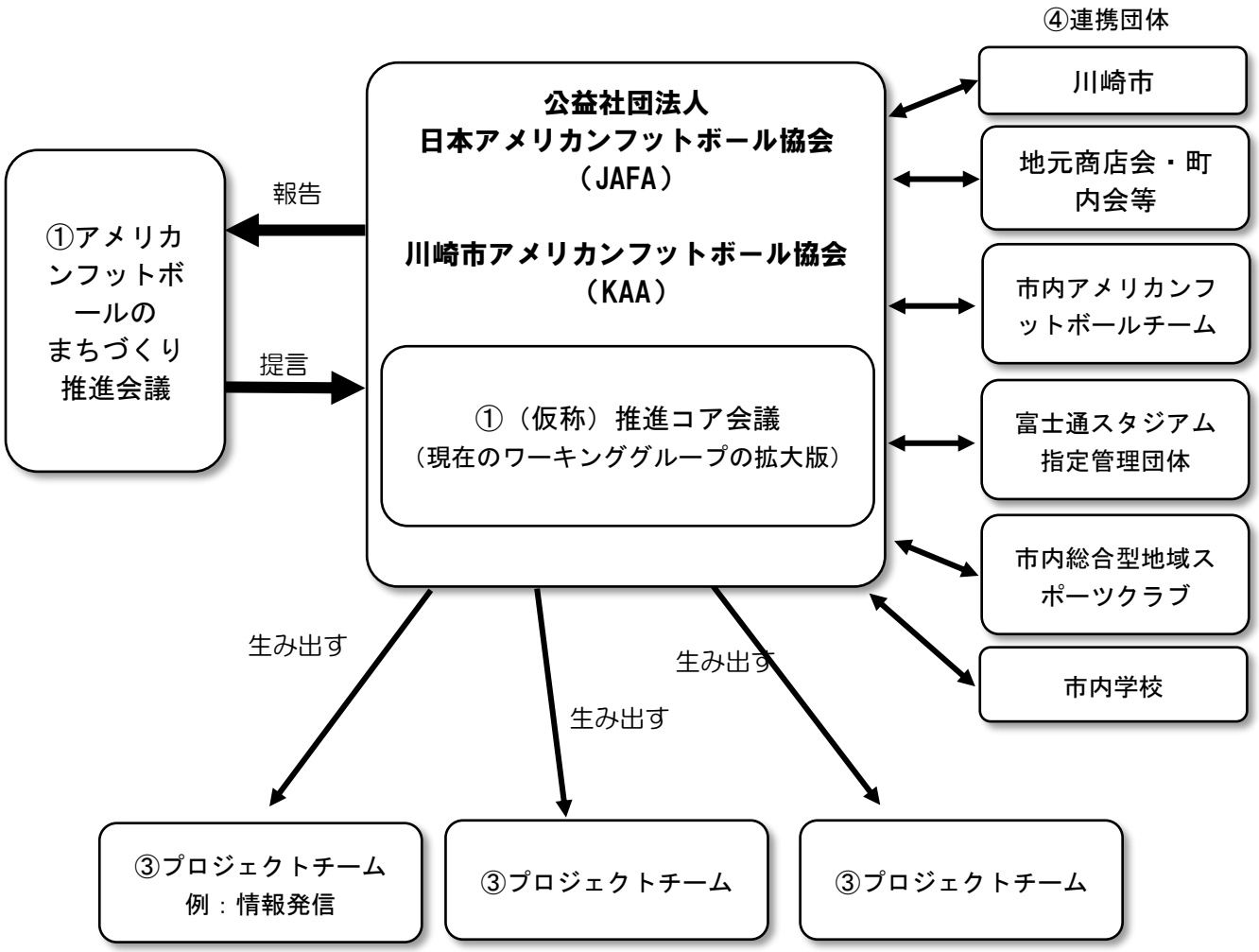
■フェスティバル企画イメージ
・かわさきアメフットフェスティバル（仮）として、アメリカンフットボール、フラッグフットボール、ホイールチェアーフットボールが連携したイベントを開催する。
＜内容＞
・アメリカンフットボール交流会＋体験会など社会人・学生選手との交流型イベント
・小学生フラッグフットイベント
・ホイールチェアーフットボールの体験型イベント
・商店会の模擬店での飲食やグッズの販売
など
・時期は、アメリカンフットボールシーズンが終わった１月下旬～２月で検討する。

第４章．取組方針の推進について

１．実行体制について

（１）実施体制

・当取組方針を推進していくためには、アメリカンフットボール関連団体が中心になり、各種団体と連携する体制をつくる必要があります。
・これまでの状況を踏まえると、次のような実行体制を構築し、取組んでいくことが考えられます。



（2）各組織の役割について

①（仮称）推進コア会議

- （公社）日本アメリカンフットボール協会及び川崎市アメリカンフットボール協会のなかに、（仮称）推進コア会議を設置します。（仮称）推進コア会議は、当取組方針を踏まえて連携団体と具体的な取組を実施することや、プロジェクトチームを生み出します。また、当取組方針に関わる団体の連絡調整なども行います。
- また、定期的に当取組指針の見直しを行います。
- 構成メンバーは、現在のワーキンググループのメンバーに必要なメンバーを加えます。

②アメリカンフットボールのまちづくり推進会議

- アメリカンフットボールのまちづくり推進会議は、当取組方針の推進状況のチェックを行います。
- （公社）日本アメリカンフットボール協会及び川崎市アメリカンフットボール協会は、当推進会議に当取組方針の推進状況を報告します。当推進会議は、報告に対し評価やアドバイスを行います。

③プロジェクトチーム

- 当取組指針を具体化するために、専門的に取り組む組織としてプロジェクトチームを設置することができます。

④連携団体

- 当取組方針を具体化するために、必要な団体と連携しながら進めていきます。連携団体については、前ページに示された以外の団体と連携することも考えられます。

2．当取組方針の見直しについて

- 当取組方針については、作ったら終わりではなく、状況や時代の変化を踏まえて見直していく必要があります。このようなことから、３年に１回は、見直しの検討を行います。
- 見直す際は、p52 で示した団体から広く意見を出してもらうことが重要です。

資料編

■ワーキンググループで出された意見

・ワーキンググループでは、まずは 2009 年の取組方針をもとにして意見交換を行いました。３年後の見直しを見据えて、ワーキンググループで出された意見を掲載します。

アメリカンフットボールを活用した まちづくり取組方針			これまでの取組の評価と今後の取組		
基本方針	取組方針	具体的な取組内容	H21～30 までの取組の状況	課題の抽出	課題解決のためのアイディア
1アメリカンフットボールの拠点化の推進	（1） 魅力的な試合の開催	魅力的な試合の増加	・TOP8&BIG8(KCFA)のゲームの半分を実施していただきたい。理由は新規のサポーターも含めて”安近短”的な戦略策定が望まれるから 試合数の増加は良いこと。リーグ設計の見直しも行い好ゲームが増えたが、いかに PR するか？が課題。	**実際に魅力的な試合は増えている。ただし、来場する観戦者は、従前からのアメリカンフットボールファンがほとんどであり、観戦者層が広がらないのが課題である。**	(1)フラッグフットボールで市内小学校へ 110 校に巡回指導を行っていて、だいぶ定着し、合わせて親にも浸透してきた。それを活用して、親にアメリカンフットボールの魅力を伝える。 (2)子どもがアメフト選手に会える機会をもっとつくり、子どもに感動を与える。 (3)アメリカンフットボールを知らない人への対応ができていない。実力差が拮抗した試合がたくさんあれば良いという人も多いが、それはアメリカンフットボールを知っている人しかわからない。 (4)アメリカンフットボール観戦講座が人気である。毎回て定員満員である。ただし、講師が少ない状況である。このため、講座の講師を増やす仕組みをつくる。 (5)アメフト観戦講座受講
		川崎を象徴する試合の開催と積極PRの展開	現行の”川崎ブランド”って何？浸透しているの？バックデータはあるのですか。 X、大学、高校などが川崎市アメリカンフットボール協会主導で連携を強化する。	**川崎市がアメリカンフットボールのメッカであることが、市内に広がっていない。市外についてもアメリカンフットボールファンや関係者以外に知られていない。** **川崎でアメリカンフットボールに関係する組織同士が連携して PR できていないのではないか。（連携して PR する必要がある）**	
		川崎を象徴する試合の拡充の検討	スポーツイベントには定義が有りナショナリズム＋スーパースターが必要であるがその域まで来ていないので時代に即した広報計画をするべき。	**「川崎を象徴する試合」とはどのようなものか、どのような演出かを検討する必要がある。**	

アメリカンフットボールを活用した まちづくり取組方針			これまでの取組の評価と今後の取組		
基本方針	取組方針	具体的な取組内容	H21～30 までの取組の状況	課題の抽出	課題解決のためのアイディア
			X、大学、高校などが川崎市アメリカンフットボール協会主導で連携を強化する		者がインフルエンサーになってもらえる仕組みや環境をつくる。 (6)川崎市北部の市民には川崎でアメリカンフットボールがあることさえ知らない人が多い。このため、北部の市民に伝える方法を考える。 (7)逆に川崎区周辺（蒲田、鶴見あたり）では、川崎でアメリカンフットボールがあることを知っている人が多い。このような人を大事にする。
		より魅力的な試合や世界大会等の招致・立上げ	世界大会がない現状をふまえると、既存の試合を盛り上げた方が良いのでは？ナショナルチーム自体の価値にも疑問	今の状況では、国内大会を先に盛り上げないと、世界大会は目立たない。世界大会のアピールより、国内大会の充実、盛り上げが先ではないか。	
	（2） 競技人口増加の取組	低年齢層から競技を楽しむ環境の整備	道具等のレンタルか寄付などして用品を五感で感じさせる事も必要か・・・	タイタンズ計画でき、市内に2チームできた。そこへの参加者はそれなりにいるが、チームが増えるなどの横の広がりがない。	(8)小中学生にアメリカンフットボールをやってもらうことは難しい部分もある。このため、フラッグフットボールの場でアメリカンフットボールを体験してもらう場をつくる。 (9)子ども達の間では、フラッグフットボールとアメリカンフットボールがつながっていない。このため、フラッグフットボールとアメリカンフットボールを連携させて周知する。 (10)参加しやすさを考えると、中学生では、アメリカンフットボールだけでなく、フラッグフットボールにも力を入れる。 (11)小学生時代にフラッグフットボールに興味がある子どもを徹底的に増やす取組を行う。 (12)アメリカンフットボール、フラッグフットボールをマルチスポーツとして位置付ける、発信する。
			フラッグフットボールの巡回指導のおかげで可能性が広がった。中学生のボトルネック解決、学校体育以外での機会提供が課題。	小学生では盛り上がってきたが、中学生がボトルネックになっている。原因は指導者が足りないことと、部活との兼ね合いが原因である。 他の競技では、子どもの囲い込みをやっているが、アメリカンフットボール、フラッグフットボールで他の競技と同じように囲い込みを行うのか。 それともマルチスポーツとしての良い面を発信するか。	
		低年齢層から競技を楽しむ環境の拡大			
			フラッグフットボールの巡回指導のおかげで可能性が広がった。中学生のボトルネック解決、学校体育以外での機会提供が課題。		
		競技を楽しむ環境の更なる拡大		アメリカンフットボールはハードルが高い。子どもの年齢に合わせた参加	

アメリカンフットボールを活用した まちづくり取組方針			これまでの取組の評価と今後の取組		
基本方針	取組方針	具体的な取組内容	H21～30 までの取組の状況	課題の抽出	課題解決のためのアイディア
				の仕方が必要ではないか。	→アメリカン、フラッグもシーズンが短いので、他のスポーツに取り組めることを発信する。→アメリカンフットボールの選手は、過去に様々なスポーツをやってきている人が多いことを発信する。（ポジションごとに求められることが違うので、これまでやってきたスポーツが活きるスポーツ）→フットボールは最も日本ナイズされていない。(13)フラッグフットボールの巡回指導において、アメリカンフットボールのポジションに合う子どもがみられる。これをアメリカンフットボールにつなぐ仕組みをつくる。
			フラッグフットボールの巡回指導のおかげで可能性が広がった。中学生のボトルネック解決、学校体育以外での機会提供が課題。	フラッグフットボールでは、指導者資格をつくることが必要ではないか。資格には、先生を目指している大学生が取得したくなるインセンティブが必要。	
			フラッグフットボールの巡回指導のおかげで可能性が広がった。中学生のボトルネック解決、学校体育以外での機会提供が課題。		
		競技経験者の掘り起こし		「競技経験者の掘り起こし」の内容が不明である。	
			各協会と連携して地道にやるしかない。連携強化が重要。		
	（3） 競技の普及・発展の拠点の形成	指導者等会議・講習の開催		指導者等会議・講習の開催はできていない。特に「指導者会議」とは、どのようなものなのか、何を目指していたのか不明確である。再度議論する必要がある。	**指導者等会議・講習の開催はできていない。特に「指導者会議」とは、どのようなものなのか、何を目指していたのか不明確である。再度議論する必要がある。**
			川崎を拠点に指導者講習会等を行うべき。協会とのすり合わせ、場所の確保などが課題。人が集まる仕組みづくりができれば、連携強化につながる。		
		指導者等会議・講習等の充実	中学生タッチフットボールでは指導者向け講習会開催は記憶にない	指導者等会議・講習の開催はできていない。 特に「指導者会議」とは、どのようなものなのか、何を目指していたのか不	

アメリカンフットボールを活用した まちづくり取組方針			これまでの取組の評価と今後の取組		
基本方針	取組方針	具体的な取組内容	H21～30 までの取組の状況	課題の抽出	課題解決のためのアイディア
			川崎を拠点に指導者講習会等を行うべき。協会とのすり合わせ、場所の確保などが課題。人が集まる仕組みづくりができれば、連携強化につながる。	明確である。再度議論する必要がある。	
		指導者等の活躍の場の確保に向けた検討		「指導者等の活躍の場」の意味や設定が不明確である。再度議論する必要がある。	
			川崎を拠点に指導者講習会等を行うべき。協会とのすり合わせ、場所の確保などが課題。人が集まる仕組みづくりができれば、連携強化につながる。		
		指導者等の活躍の場の提供		「指導者等の活躍の場」の意味や設定が不明確である。再度議論する必要がある。	
			小学校 113 校の卒業生の”スーパースター”を探せをお願いしてこの活動に参加を促す（アメリカンフットボール経験者のみ）		
			川崎を拠点に指導者講習会等を行うべき。協会とのすり合わせ、場所の確保などが課題。人が集まる仕組みづくりができれば、連携強化につながる。		
		競技者に対するサポート体制の充実	昨年 H29、法政大グランドでヘッズアップフットボールの指導が中学生向けに開催された。	今後必要な視点であるが、サポートが必要なほど競技者が増えていない。	

アメリカンフットボールを活用した まちづくり取組方針			これまでの取組の評価と今後の取組		
基本方針	取組方針	具体的な取組内容	H21～30 までの取組の状況	課題の抽出	課題解決のためのアイディア
			まずどんなサポートを求めているか？の把握からすべき。		
2アメリカンフットボールを活用した地域商業・経済・コミュニティの活性化	（1） 競技団体と市内商店街の連携、地域経済活性化	試合観戦者が地元商店を訪れる仕組づくり	・徹底的にアメリカンフットボールに関する事を行い市民に”変わったな”を確認す る。 ・ビジュアル表現で先ずは見せるべきである。市スポーツ室の職員はアメリカンフットボールＴシャツを制服として来ていただきボランティア賛同者には色違いで作成し貸与して参加してもらう	富士通スタジアム川崎から商店街への導線が必要である。お店を知ってもらうための取組も重要である。ルフロンとの連携は大きい。成果を出している。もっと詰めた具体的なアイディアが必要である。	(18)渋谷センター街がバスケットストリートと呼ばれたように、アメフト商店街の通りなどをアメリカンフットボール関係の名称で呼ぶようにする。 (19)商店街×アメリカンフットボール関係者×川崎市のワーキンググループがあるので、そこと連携する。 (20)アゼリアやアトレでアメリカンフットボールをPRしてもらう。アトレの店員がたまにフロンターレのユニフォームを着ているが、そのような感じで。 (21)商店街のお店がアメリカンフットボールに何を望んでいるのか把握する必要がある。把握したうえでコラボの内容を考える。 (22)これまでさまざまな普及活動が行われているが、点で終わっている、これを戦でつなぎ、面に広げる取組を行う。
			川崎市に存在するさまざまな関係者との連携は深まってきていると感じます。あとはどうやるか？アイディア次第。		
		試合観戦者が地元商店を訪れる仕組の充実	観戦後の飲食店利用で割引		
			地元商店街のメリットを明確提示すべき。スマホなどで連動すれば、新たなビジネスチャンスも。		
			会場での地元商店街による屋台村		
		商店街イベント等への参加の継続・拡大	・年間スケジュールを目のつくところに掲示していただく。		
			参加して露出を増やすべきだが、ヒト・カネなど限りあるリソースの選択と集中を考慮すべき		
		商店街による競技や地元チームの	川崎市アメリカンフットボール協会が各大学へ理解資料を提供する		

アメリカンフットボールを活用した まちづくり取組方針			これまでの取組の評価と今後の取組		
基本方針	取組方針	具体的な取組内容	H21～30 までの取組の状況	課題の抽出	課題解決のためのアイディア
		PR 活動への協力・支援	参加して露出を増やすべきだが、ヒト・カネなど限りあるリソースの選択と集中を考慮すべき		
		商店街によるスポンサーシップやイベントの開催・運営	参加して露出を増やすべきだが、ヒト・カネなど限りあるリソースの選択と集中を考慮すべき		
	（2） ホームチームの地域密着化	ホームチーム等の地域活動への参加の継続			(23)川崎市に本拠地を置くチームに限らず、どのチームでも川崎市内でPRできるようにする。そのような、チームに対して川崎市に関わる協会として応援する。 (24)フラッグフットボールの「アメフト選手の母校に帰る」と一緒に取り組む。 (25)川崎市出身の選手を応援する仕組みをつくる。 (26)Xリーグ、学生チームなど、全チームが川崎に関われる環境をつくる。 (27)川崎には富士通スタジアムのようにきれいなところで観戦できるようことを、広く周知する。 (28)アメフト部がある大学が、川崎に貢献するインセンティブを明確にする。これにより、大学も川崎に関わりやすくなる。
			チーム間に格差があるのがもったいない。協会等がバックアップを強化して、X・大学・高校、フラッグなどの縦の連携のコラボも必要。		
			富士通フロンティアーズによる小学生へのスポーツ教室実施	各チーム力をいれてやってる。選手としては、ファンを増やすというより、自分が頑張れる気がしている。これを目標になっている。「する」「みる」「支える」の視点を取り入れた取り組みを考えるべきである。各チームでこれまで取組が行われている。今後、どう展開するかが課題。	
		地域がホームチームを応援する取組の検討	チーム毎のプライドシールの活用		
			チーム間に格差があるのがもったいない。協会等がバックアップを強化して、X・大学・高校、フラッグなどの縦の連携のコラボも必要。		
		地域一体となったゲームデイイベ			

アメリカンフットボールを活用した まちづくり取組方針			これまでの取組の評価と今後の取組		
基本方針	取組方針	具体的な取組内容	H21～30 までの取組の状況	課題の抽出	課題解決のためのアイディア
		ントの企画・開催	ハーフタイムでの地元中学生による演奏		
			チーム間に格差があるのがもったいない。協会等がバックアップを強化して、X・大学・高校、フラッグなどの縦の連携のコラボも必要。		
	（3） 地元ファンの増加、応援体制の強化	ホームチームへの関心を高める取組	サポーターチームの「プライドシール」の活用を	アメリカンフットボールの場合、フランチャイズとして考えるのではなく、セントラルタイプになっている。このため、セントラルタイプとして、どう盛り上がるか、その視点で考えることが必要である。（日本のカーリングに近い） 富士通フロンティアーズの試合はほぼ満席になっているが、その他の試合が満席になっていない。その他の試合をどう満席にするかを考えるべきである。	(29)シーズンチケットを活かす。もっとシーズンチケットを売れるようにする。合わせて、シーズンチケットを買うメリットをつくる。 (30)集客が難しいチームへの対応を考えることが必要である、その対応のパッケージをつくる。 (31)川崎にフランチャイズがあるチームに限らず、川崎市内でフラッグフットボールに関われるようにする。
			地元ファンも重要だが、それにこだわる必要もない気がします、、初観戦者のきっかけづくりには有益。		
		ファンクラブの形成促進	デジタルでのファンクラブ運営はマスト		
		地元住民によるサポーター組織の形成活動			

アメリカンフットボールを活用した まちづくり取組方針			これまでの取組の評価と今後の取組		
基本方針	取組方針	具体的な取組内容	H21～30 までの取組の状況	課題の抽出	課題解決のためのアイディア
3 アメリカンフットボールと川崎の 魅力発信・相互イメージアップ	（1） 共同PR活動の展開	アメリカンフットボール関連情報と川崎の魅力の相互PR	指定管理者のフロンターレへの支援（入口のアメリカンフットボール人形のシャビーなモノで有りイメージが悪く夢を抱かせるものでないので現場に来た人間が”おっ！変わったな”とイメージをするビジュアルが欲しい。決して人形でなくても良い（例えば今週の標語でも良いし”みつをサンの様な墨文字で OK）	まずは、相互PRについて、アナログ事例について検証するべきである。 デジタルの充実も必要である。 どういうメディアを使って、どうすれば良くなるか知見も溜まっているので、それを活かす。 協会と行政が協働でPRしていることについて、総合的にはすばらしいことである。	(2)南武線を活用して、川崎とアメリカンフットボールをPRする →車内広告（済） →トレインビジョンで動画放映等。 ＜課題＞ 市民に川崎でアメリカンフットボールを開催していることを知られていない。 アメリカンフットボールのPRだけでなく、川崎市とアメリカンフットボールの両方をPRする必要がある。 アメリカンフットボールが川崎市まちづくりでどのように貢献できるのかを、明確にする必要がある。 (33)アメリカンフットボールの選手が川崎市をPRするワードを持つようにする。 (34)川崎市が何をPRしたいのかを知る。 (35)アナログのPRも大事。
			川崎駅電子表示板による試合告知		
			行政との連携は素晴らしい。どのような内容で発信するか？が課題	ターゲットの明確化が必要。 役割分担の明確化が必要である。 それを割り振り（コーディネート）する体制も必要。	
		市施策・イベントのPR・アピールへの競技関係者の起用	市バス等の車内広告及びバス停音声案内	地元チーム以外のファンをいかに富士通スタジアムへ呼ぶかを考える必要がある。	
			区民祭等への選手・チアーの出演		
		市施策・イベントのPR・アピールへの競技関係者の起用	行政との連携は素晴らしい。どのような内容で発信するか？が課題		

アメリカンフットボールを活用した まちづくり取組方針			これまでの取組の評価と今後の取組		
基本方針	取組方針	具体的な取組内容	H21～30 までの取組の状況	課題の抽出	課題解決のための アイディア
		新たな媒体や広報物の検討	デジタルでの PR 方法を考えるべき。アナログは選択と集中。		
		新たな媒体や広報物の活用	図書館のレシートへのPR印字		
			市バスマップへの PR 記載		
			英語表記のPRパンフ作成		
			小学生向け英語教材作成		
		内外先進都市との交流事業の検討	特に関西圏の都市との交流をして、川崎モデルを展開する価値はあり(教えてほしいとの依頼有)		
	（2） 誰でも楽しめる観戦環境づくり	観客ニーズの把握	・プロの解説者（お金が有ればオードリーの若林）を入れる。観る楽しさや誰でも分かるトーン＆マナーで	観客別にニーズを把握し分析する必要がある。 観客は増えており、満席になる試合は増えている。	(36)観客の何を望んでいるのか、しっかり把握する。 (37)アメリカンフットボールを理解するためにルールを簡単に知る、理解する仕組みをつくる。 （例） 観戦講座の回数を増やす 会場でルールガイドを実施する（女性がガイドするなど） (38)スタジアムの観戦環境の整備（例：授乳室など） (39)観戦環境づくりは、今となっては当然のことである。いまさらここで語る
			顧客のニーズ把握はなかなか難しいが、女性や子ども連れでも見やすい環境整備は重要。		
		観客ニーズに沿った取組の推進	X リーグのデータを活用して観戦者マーケティングに生かすべき。		
		市民参加による来場者サービスの提供	どの顧客を対象にするのか？で違いがある。行政との連携強化することでニーズが把握できる可能性も。	「市民参加による来場者サービスの提供」とはどういうものかを検討する必要がある。	

アメリカンフットボールを活用した まちづくり取組方針			これまでの取組の評価と今後の取組		
基本方針	取組方針	具体的な取組内容	H21～30 までの取組の状況	課題の抽出	課題解決のためのアイディア
					必要がないのではないか。
4 フラッグフットボールを通じた 子どもたちの健全育成と 市民の“絆”の強化	（1） フラッグフットボールの推進による子どもたちの健全育成	子どもたちへのフラッグフットボールの普及促進	中島さんが尽力している		(40)学校以外での普及とは、何をもって普及なのか明確にする。 (41)学校において体育以外でも、フラッグのボールで遊べるようにする。 (42)市内にフラッグフットボールのクラブチームを増やす。 (43)市内にフラッグフットボールのクラブチームの情報発信を活発にする。 (44)チームをつくらなくても（チームに入らなくても）、個人でも楽しめる環境をつくる。
			H18 から H30 まで 13 年間行われている川崎市フラッグフットボール巡回指導は H30 では小学校 98 校、中学校 1 校、高校 1（普通 1/定時制1）特別支援学校 1 校、小学校のクラブ活動・校内研修で実施され、市内公立学校に定着し、普及促進されている。		
			素晴らしい事例。		
		フラッグフットボール市内交流会の開催			
			川崎市と川崎市アメリカンフットボール協会の協力連携で小学生フラッグフットボール交流大会は年 4 回開催。子どもから大人まで楽しめる体験会・講習会は夏休み中に 1 回、とどろきアリーナで開催。		
			素晴らしい事例。		
		フラッグフットボールの地域定着	富士通スタジアム川崎で東日本選手権、日本選手権が開催されている	フラッグフットボールの普及にこんなに力を入れている自治体はない。	
			子ども文化センター、総合型スポーツクラブなど地域に定着してしつつあるが、まだ、日常の遊びの中に広く普及しているとは言えない。	学校では取り組まれているが、放課後や休日にフラッグフットボールで楽しんでいる子どもはあまりみかけない。放課後や休日にフラッグフットボールを楽しむ子どもを増やす	

アメリカンフットボールを活用した まちづくり取組方針			これまでの取組の評価と今後の取組		
基本方針	取組方針	具体的な取組内容	H21～30 までの取組の状況	課題の抽出	課題解決のためのアイディア
				ための環境づくりが必要である。	
			学校体育以外での普及をどうするか？金井先生いつも話している課題です。	フラッグフットボールは、子どもたちにとってどのような価値があるかをしっかり発信する必要がある。 それをフットボール関係者が言えると良い。	
	（2） フラッグフットボールの拠点化の推進	日本フラッグフットボールの全国発信拠点化の推進	富士通スタジアム川崎で東日本選手権、日本選手権が開催されている	富士通スタジアム川崎が拠点となりつつある。 もっと気軽に楽しめるための環境づくりが必要である。	(45)今の取り組みを継続する。 (46)指導者育成を学校体育とクラブチームで分けて考える。 ※フラッグフットボールの拠点化の推進、フラッグフットボールとアメリカンフットボールの連携は、アメリカンフットボールの推進に持っていく。 ※フラッグフットボールについては、「子どもの健全育成」と「競技の普及」に分けて考える。
			HuddleBowl・NFLFlag 東日本大会、全国大会の開催により全国のフラッグフットボールプレイヤーが川崎での試合を目指している。		
			THE HUDDLE BOWL、NFL FLAG などフラッグフットボールビッグゲームの開催		
			拠点化してきていると思います。あとは内容と回数。		
		フラッグフットボール指導・育成の拠点化			
			小学校体育研究会主催の夏季実技研修会で先生方がフラッグ指導できるよう対応した		

アメリカンフットボールを活用した まちづくり取組方針			これまでの取組の評価と今後の取組		
基本方針	取組方針	具体的な取組内容	H21～30 までの取組の状況	課題の抽出	課題解決のためのアイディア
			ハドルボウルに地元とのアライアンスを入れる（ソロソロメイクアウイッシュは終わりでゲームズメーカーKawasaki ピープルを意識して展開をして行った欲しいですね（そうしないと*指定趣旨成り立ちが管理者のフロンターレからクレームが入ると思われます*）		
			拠点化してきていると思います。あとは内容と回数。（飯塚）		
		フラッグフットボールとアメリカンフットボールの連携	川崎オレンジ、FFFC から中学生タッチや高校フットボールのコネクションが若干みられる。	地域（市単位くらいで）ごとに協会同士で話し合う場が必要である。	
			川崎出身の Xleague の選手が母校の巡回指導に参加して子ども達にアメリカンフットボールに興味関心を持たせる活動を実施。	できている部分もあるが、できていない部分もある。	
			まずは協会同士がさらなる連携、それから行政を巻き込むのが賢明。		
	（3） フラッグフットボールを通じた市民の交流の推進	幅広い世代へのフラッグフットボールの紹介	FFFC ではシニアチームも存在している（土橋）		※フラッグフットボールについては、「子どもの健全育成」と「競技の普及」に分けて考える。
			Xleague の試合前のイベントで「親子でキャッチボール」の実施（金井）		
			子どもと大人が一緒にできることを PR し、地道に実施していくしかない。		
		幅広い世代へのフラッグフットボー		交流のイメージが明確ではない	

アメリカンフットボールを活用した まちづくり取組方針			これまでの取組の評価と今後の取組		
基本方針	取組方針	具体的な取組内容	H21～30 までの取組の状況	課題の抽出	課題解決のためのアイディア
		ル交流機会の提供	川崎市民祭り H29 参加しフラッグのボールを貸し出し子どもから大人まで楽しんでいただいた。	今後はおとなへの取り組みが必要ではないか。 →スポーツする人（おとな）60%にする必要がある。	
			子どもと大人が一緒にできることを PR し、地道に実施していくしかない。		
		フラッグフットボールと地域の交流の促進			
			子どもと大人が一緒にできることを PR し、地道に実施していくしかない。		
			中原区役所主催の小学生フラッグフットボール交流大会への協力		
※アメリカンフットボールを活用したまちづくり取組方針にない取組・視点・アイディア			①与件の整理は深く関与して居ないのでアバウトで書いてあるので KAA や市スポーツ室の協力が必要と思われる ②コミュニケーション戦略が非常に悪く古い慣習や忖度など取り除き”市民”中心に考え政府が行なって居る地方創生や地方自治体への予算配分及び補正予算など視野に入れて討議が必要と思われる SNS や新しいコミュニケーションツールを理解し取り入れる事によって新たなコミュニケーションターゲットが生まれると思われる ③今回は障がい者とかには触れていないが川崎が新しい取り組みに必ず入れている言う姿勢は欲しいですね		
				まずは我々の組織体制を確立し、各関係団体との連携を深めることがスタート(内部マネジメントの整備)アイディアは思いついたらその都度提案します。	

■ワーキンググループ

（1）名簿

清水　裕司　　公益社団法人 日本アメリカンフットボール協会　専務理事
渡部　滋之　　公益社団法人 日本アメリカンフットボール協会　常務理事
金井　由明　　川崎市アメリカンフットボール協会　理事長
太田　正治　　NPO 法人 東京グラスホッパー　理事
飯塚　啓太　　帝京平成大学 現代ライフ学部 経営マネージメント学科 トレーナースポーツ経営コース 助教
土橋　雅之　　関東中学生アメリカンフットボール連盟　理事
中島　　要　　川崎市アメリカンフットボール協会　理事

＜オブザーバー＞
八木　一志　　川崎市役所市民文化局市民スポーツ推進室　課長

（2）検討スケジュール

日程		内容
2018 年	5月５日	・取組指針策定のプロセス、スケジュールの検討
	6月3日	・2009 年度取組方針振り返り方法の検討
	7月 15 日	・2009 年度取組方針振り返り（課題の抽出）
	8月 14 日	・2009 年度取組方針振り返り（課題解決のためのアイディア出し）
	9月 12 日	・2009 年度取組方針振り返り（課題解決のための方法の検討）
	11 月 14 日	・当取組指針の基本目標と方向性の検討
	12 月６日	・当取組指針の具体的な取組の検討
2019 年	1月 15 日	・当取組指針の取りまとめ
	2月 15 日	・当取組指針の取りまとめ
	3月 29 日	・当取組指針の最終確認

川崎市アメリカンフットボールのまちづくり取組指針
発行者　公益社団法人　日本アメリカンフットボール協会
川崎市アメリカンフットボール協会
発行年月　2019 年３月